

三田尻鹽務局

下松出張所之部

三田尻鹽務局下松出張所ノ部

第一章 鹽田位置、方位及附近ノ地勢、地形

下松鹽田ハ山口縣周防國都濃郡ノ東南ニ位セル下松大字東豊井西豊井及末武南村大字末武下平田等ノ南端一帯ノ地ニシテ北ハ久保村末武北村及久米村ノ北部ニ連亘セル峰巒ヲ負ヒ南ハ東ニ笠戸島西ニ大島半島ヲ以テ畫セル下松灣ニ面セリ河ハ西ニ末武川アリ中間ニ平田川玉釣川切戸川等ノ諸川アリテ末武川切戸川ノ二川ハ洪水ノ際堤防缺壞シテ濁水汜濫鹽田ヲ害スルコトアリ鹽田ノ中東潮上西潮上及宮洲宮浦等ノ諸濱土地稍ヤ高クシテ池沼ノ設ケナキモ其他ノ諸濱ハ悉ク池沼アリ就中鶴ヶ濱一ノ樹二ノ樹ハ地盤低キニヨリ排水ノ爲メ最大ナル鹽廻池沼アリ地勢ハ前ニ港灣ヲ控エ後ハ下松市街ニ接シ海陸運輸ノ便ニ富メリ

第二章 鹽業ノ沿革

當所轄内ニ於ケル下松製鹽ノ起源ハ憑ルヘキ證ナキヲ以テ其ノ創始ノ何レノ時代ナルカハ知ル能ハスト雖モ古老ノ口碑ニ存スル處ニ依レハ下松町東豊井字新川濱ノ西北ニ錢屋濱ナルモノアリテ昔時海岸ノ砂土ニ海水ヲ撒布シ鹹水ヲ造リ製鹽セシ處ナリト案スルニ當時ノ製鹽ハ現下本郡北海岸地方ニ行ハレツ、アル揚濱製鹽法ニ類セルモノナランカ爾來物換リ星移リ漸次製法ヲ改良シ現時ノ入濱鹽田製鹽法ニ進化セシハ毛利氏ノ領土ニ歸セシ以後ニシテ約三百年前ニ屬セリト云フ然レトモ舊毛利藩政ニ於ケル鹽業上ニ對スル制度ノ如キモ舊記ノ徵スヘキモノナシ只タ口碑ノ傳フル處ニヨリ之ヲ採録スレハ概ネ左記ノ如シ而シテ末武南村ハ毛利家宗藩ノ直轄ナレトモ下松町ハ其支藩ノ領地ナリシニヨリ隨テ制度ニ於テモ多少ノ差違ナキ能ハス又下松鹽ノ產出地ハ下松町及末武南村ノ二部落ニアリテ古來下松鹽平田鹽等ノ名稱アリシモ由來海路下松港ヨリ輸出セルモノナルヲ以テ近來下松鹽ノ名稱ヲ博セルモノ、如シ

藩政時代ニ於テ保護獎勵ヲ加エタル事蹟ナキモ往古ヨリ防長二州ノ各濱持始メ持止メ日限ハ毎年正月十五日八月十五日ノ兩

度三田尻大年寄及各郡濱庄屋、年寄等熊毛郡室積村ニ集會シ其年ノ氣候ヲ斟酌シテ日限ヲ協議決定ノ上大年寄各村ヲ代表シテ許可ヲ得之ヲ各郡ノ年寄ニ達スルヲ例トセリ(一ヶ年凡ソ晴天百濱持ノ見込ヲ以テ伸縮スルノ内規ナリ)又因州ノ領主ヨリ御用鹽ト稱シ領内ノ費消高ヲ見積リ毎年吏員ヲ派遣シ鹽ノ買入ヲ爲シ鹽質ノ佳ナルモノニハ特ニ墨付ヲ與エテ獎勵セシ例少カラスト云フ現今ニ至ルモ因伯地方へ輸出スルモノ多キハ此由緒ニ據レリ

租税ノ徵收ハ藩ノ制度トシテ新ニ鹽田ヲ開墾シタルモノアルトキハ、歛下年期ト稱シ或ル年間(五年乃至十五年)租税ヲ徵ヤス又其年期間ハ堤防ノ修理保存等各自ノ負擔ナルモ其年間堤塘ノ破壊等モナク又徵租シ得ヘキモノト認メタルトキハ横帳入ト稱シ租税ヲ徵收スルト同時ニ堤塘ノ修理保存モ亦タ藩ニ於テ負擔スルヲ例トセリ租税ハ從來米ノ石高ヲ盛付ケ之ヲ銀(藩札)ニ換算シテ徵收セリ濱ノ良否ニ依リ一定セサルモ一竈ニ對シ多キハ四百匁(百匁ハ壹圓參拾錢ニ相當ス)少キモ貳百五拾匁ヲ徵シ別ニ小貫ト稱シ正租ノ十分ノ一以内ヲ徵收ス其徵收期ハ七月、十二月ノ貳回トセリ

東潮上濱、西潮上濱ハ末武南村大字平田ニアリ國主毛利氏ノ國老毛利某(元周防國吉敷郡吉敷村ノ領主男爵毛利忠三ノ祖先)ノ給地ナリシカ元祿二年ノ頃開墾セリト一説ニ今ノ平田開作ヲ開拓シ耕地ト爲セシモ海水浸入シテ米穀稔ラサルヲ以テ元祿二年中間ニ堤塘ヲ設ケ東西潮上ヲ鹽田ニ變更シ攝津國ヨリ製鹽業ノ熟達者ヲ聘シ製造ヲ始ム是レ下松製鹽ノ祖ナリト云フ鶴ヶ濱一ノ樹ハ同地ヨリ毛利氏ノ國老益當某(長門國須佐村ノ領主男爵益田某ノ祖父)ノ給地内ニ食鹽ノ製造所ナキヲ以テ鹽ノ缺乏スルコトアランヲ慮リ領主毛利氏ニ請ヒ周防國佐波郡三田尻ノ住人坪郷某ヲシテ之ヲ經營セシメ天保九年落成セリト云フ

鶴ヶ濱二ノ樹モ同所ニアリ嘉永五六年ノ頃周防國吉敷郡臺道村ノ住人町田某領主毛利氏ニ請ヒテ之ヲ開墾セリト云フ西沖濱ハ同村大字末武下ニアリテ毛利氏ノ國老宍戸伊勢(周防國熊毛郡三丘ノ領主宍戸某祖先)ナルモノ、給地タリシカ天明二年其臣山本彌七ナル者主ニ請ヒテ是ヲ開墾セリト云フ

宮ノ洲濱ハ同郡下松町大字東豊井ニアリ貞享年間大雨ノ爲メ山岳ノ崩壞シテ海面砂洲ニ變シタルヲ以テ元祿三年其地ノ素封

家磯部某領主毛利氏(子爵毛利元秀ノ祖先)ニ請ヒテ鹽田ヲ開墾セリト云フ

宮浦濱及新崎濱モ同所ニアリ天明年間磯部某是ヲ開墾セリト云フ

新川濱ハ同町大字西豊井ニアリ新川濱ノ内三濱ハ天明年間(一説ニ寛政年間トモ云フ)熊毛郡三井村ノ住人「ミドロ」某他ノ二濱ハ文政年間(開墾者不明)ノ開墾ナリシカ就中清水濱ハ清水湧出シテ製鹽ニ適セサルヲ以テ是ヲ耕地ニ變更セリ故ニ現今四濱トナレリ

中川原濱モ同所ニアリ天明年間(開墾者不明)ノ開墾ナリト云フ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹽田ノ種類及面積

當所轄内鹽田ハ總テ入濱ニシテ其區劃整然トシテ概ネ長方形ヲ爲ス面積ハ各差違アリテ一定セス其ノ中大ナルモノハ一戸前貳町七反九畝拾七步小ナルモノハ壹町壹反八畝貳步ナリトス本調査ヲナシタル龜屋濱ハ當所轄内鹽田中ニ於テ諸般ノ設備稍ヤ完全セシモノニシテ直幅四拾六間五步直長百六間八分ナリ

鹽田面積壹町七反九畝拾步 外七畝拾五步(釜屋倉庫納屋敷地)

二 堤防ノ面積、高低及築造材料

元來鹽田ハ地盤非常ニ低クシテ滿潮期ハ水面ヨリ低キコト普通七八尺ナルヲ以テ四圍ニ堤防ヲ築設シテ潮水ノ浸入ヲ防キ適宜ノ個所ニ水閘ヲ設ケ潮水ノ誘導ヲ爲ス裝置ナリ堤防ハ總テ土砂質ヲ以テ築造シ内面ハ五分乃至一間餘ノ腰垣アリ外面即チ海ニ面スル所ハ高サ貳間乃至參間餘ノ石垣ヲ築造シテ大抵堤塘ノ天端マテ築上ケ且ツ稍ヤ危險ナル所ニアリテハ高サ壹間五分乃至貳間ヨリ腰石垣ヲ築造シ以テ暴風怒濤ノ侵害ニ備フ而シテ堤防馬踏(鹽田通行ノ便ヲ計リ道路兼用ノ所アリ面積貳畝八步高低直高壹間參分乃至貳間四分(圖面參照))

三 鹽田内溝渠ノ面積

渠溝ノ面積壹反九畝貳拾貳步總延長千參拾五間貳分、小溝延長四百七拾間四分、幅參分、大溝延長五百六拾四間八分、幅六分乃至壹間、小溝深七寸、大溝壹尺貳寸乃至壹尺五寸、各溝渠間ノ距離六間五分乃至六間八分

ナリ(圖面參照)

四 撒砂(鹹砂)浸出裝置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置、施設(撒砂)鹹砂ヲ濾過スル裝置ハ

俗ニ沼井ト稱シ其ノ築造ハ鹽田地盤中、横五尺縱九尺ノ面積ニ赤粘土厚四五寸ニ打固メ然ル後縱ヲ四尺五寸ツ、ニ貳分シ其中中央ニ高サ壹尺長サ五尺厚サ九分ノ松板ニテ區分シ其兩側即チ四尺五寸ノ處ニハ高サ壹尺貳寸厚長同上ノ松板ニテ仕切り而シテ各區別サレタル周圍ヲ厚サ三寸巾五寸ニ赤粘土ヲ搗キ固メテ縁ヲ作り(縁ハ兩側ノ板ノ内側ニ作ル)其下部ニ八寸許リノ管ヲ裝置シ置ク此ノ竹管ハ即チ濾過サレタル鹹水ノ吐口ナリ而シテ中央ノ板ヲ支フニハ壁ト稱シテ板面ノ兩小口ニ高サ壹尺貳寸ニ赤粘土ヲ以テ搗キ固メ外側ノ板ハ板ノ外方(沼井壺通ヲ除ク)及兩小口ヲ別ニ同一ノ高サニナシ以テ板ヲ固定セシム尙ホ各板ノ兩小口通ニ方ル側方ハ粘土ニテ同高壹尺參寸ニ搗キ固メ以テ鹹砂ヲ容ル、處トナス次ニ其ノ内部ニハ六本ノ根太(長八寸方貳寸)及壹本ノ横木(長八寸方貳寸)ヲ置キ其ノ上部ニハ六本簧ト稱シテ割竹六本ヲ編ミタルモノヲ置キ又其ノ上部ニハ割竹ヲ編ミタル簧ヲ敷キ(土ニテ作りタル縁ニカケ)其ノ上部ニ藁菰ヲ敷キ以テ撒砂濾過裝置トナス第一圖ノ如シ沼井數百八臺ニシテ其ノ配置ハ一筋ニ拾八臺ヲ設置シテ六筋アリ其ノ間隔ハ略同一ニシテ四間乃至四間四分アリテ其ノ構造ニ至リテハ更ニ異ル事ナシ(圖面參照)

五 鹹砂貯藏裝置ノ構造、大小、面積及鹹砂ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 該當記事無ナシ

六 鹹水輸送裝置ノ構造、面積及輸送ノ方法 鹹水輸送裝置ノ構造ハあんぷト稱シテ高サ七尺横六尺三寸縱七尺六寸

ノ架ヲ作り其ノ上ニ高サ壹尺五寸横四尺五寸縱六尺五寸ノ箱ヲ置キ箱底中央ニ一個ノ穴ヲ穿チ(其ノ穴ノ上ニ篋ヲ倒ニ伏セ而シテ塵埃ノ中ニ入ルヲ防ク)其ノ穴ニ經三寸餘長六尺六寸ノ管ヲ(竹管垂下ノ部分ハ藁又ハ菰ヲ卷キ付ケ乾裂ヲ豫防ス)地中壹尺計リノ處ニ於テ他ノ竹管ニ連續セシメ以テ鹹水溜ニ輸送スあんぷニ鹹水ヲ送ルニハ長六間前後巾壹尺貳參寸ノ板ヲ架ケ以テ歩ミノ用ニ供ス元來あんぷハ鹹水輸送ノ便ニ供シタルニ過キサルヲ以テ鹹水溜メニ最モ近キ沼井ヨリ向フ六臺迄ハ濱子日壼等擔桶ニテ直ニ鹹水溜ニ運搬シ次ノ七臺目ヨリノ鹹水ハあんぷニ依テ輸送スルモノナリ

七 採鹹用具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方方法

(圖面參觀)

名	稱	種	類	員數	使	用	方	法
あ	ん	み	木	一	鹹水ヲ鹹水溜ニ輸送スルトキ用フ			
大	踏	車	木	一	地盤中ノ潮水排出又ハ汲入ノ時ニ供ス排出ノ場合ハ潮湛エ流出セサルトキ汲入ノ時ハ俄ニ降雨ノ模様アル時地盤ニ潮ヲ入レントスルモ引潮ニ際シ樋門ヲ開クモ潮水減退スルトキ汲入ノ用ニ供ス			
小	踏	車	木	一	甲地盤ノ潮水乙地盤ニ移ストキ用ユルモノトス地盤ヲ甲乙トナスハ替持ナルニヨル			
五	本	子	鍬	三	冬入替送砂チ地盤ニ入ル、時ニ用ユ			
六	本	子	鍬	四	五本子ノ使用方法ニ同シ			
金		子	鍬	五	雨後ニ於テ仕入濱ト稱スルトキ(濱引)ニテ搔キ起ス前之チ用ユ			
濱	引	引	同	八	常ニ地盤ノ撒砂ヲ搔キ起スニ用ユ			
道	引	同	同	四	鹹水採取ノ爲メ撒砂ヲ踏ミ固クナリタル所ノミ搔キ起スモノナリ			
掛	板	木	鍬	二	濱曳キニテ操作ヲナシタル後其ノ上チ曳キ均スニ用ユルモノナリ			
沼	井	踏	同	九	沼井中ニアル撒砂ヲ掘出スニ用ユルモノナリ			
沼	井	廻	同	一五	鹹砂ノ蒐集シアルチ沼井中ニ入ルルニ用ユルモノナリ			
寄	井	同	同	五	地盤ニ撒布セル鹹砂ヲ蒐集スルニ用ユルモノトス			
沼	井	同	同	二	鹹砂チ沼井ニ入レタルトキハ鹹砂ノ高低チ平均ナラシムルニ用ユ			
も	んだ	杓	同	一〇	沼井臺ニ滴下セル鹹水ヲ汲ミ取用ニ供ス			
荷	ん	桶	同	七	鹹水運搬用ニ供ス			
て	れ	か	籠	四	入替砂チ地盤ニ運搬スルトキニ用フ			
縁	ん	か	同	一	地盤ノ周圍ノ溝縁ノ撒砂チ其中ニ曳キ入ルル爲メ溝縁チ曳キ歩ムモノナリ			
及	立	鎌	同	五	濱引等ノ子竹ノ刃チ立ツルニ用ユ			

八 採鹹用器具ノ新調費及保存期限

(十三) 三田尻鹽務局下松出張所ノ部

第三章 製鹽方法 甲 鹹水採收

名 稱	新 調 費	保 存 期 限	名 稱	新 調 費	保 存 期 限
あんふ但竹管共	三五,〇〇〇	八ケ年	もんだれ柄杓	一八〇	四ケ月
大踏車	一五,〇〇〇	三ケ年	擔てれん籠	一,二〇〇	三ケ月
小踏車	一〇,〇〇〇	三ケ年	金引子	二,〇〇〇	一ケ月
道引	四,〇〇〇	一ケ年	濱引	一,五〇〇	三ケ年
掛板	五,〇〇〇	一ケ年	五本	三,〇〇〇	一ケ年
沼井堀	六,〇〇〇	一ケ年	六本	二,六七五	三ケ年
沼井廻	六,三三三	六ケ月	鎌	一,四〇〇	三ケ年
寄井	四,四五	四ケ月	へりいれ	一,三〇〇	一ケ年
沼井踏	四,〇〇〇	六ケ月		二,五〇〇	一ケ年

九 鹹水貯藏裝置、構造、大小、形狀及面積

鹹水貯藏地ヲ大別シテ本壺助ケ壺ノ二トナス本壺ハ製造場近接ノ所ニ

アリテ上口長七間半巾四間半底長五間九分巾貳間四分深サ七尺ニシテ四壁及底部ハ全部厚サ貳尺ニ粘土ヲ固ク打固メ鹹水ノ漏洩ヲ防ク而シテ四壁ノ内部ニ上端ヨリ下方五尺ノ所ニかいまわしトテ上巾壹尺壹寸直高壹尺ノ小段ヲ設ケ之ニ接續シテ下方ニ巾壹尺四寸高サ八寸ノ小段ヲ設ク是等小段ハ側壁ノ割レ下リヲ豫防スルモノナリ而シテ本壺ヨリ釜屋内ナルひょうたんニ鹹水ヲ輸送スルニハ竹管貳本ヲ通ス(下部ニアルヲ道樋ト云ヒ上部ヲ豫備樋ト云フ)而シテ本壺ヲ覆フニ桁行九間梁行五間九分中央高サ參間ノ瓦葺ノ屋根(屋根尻ハ地盤ニ接ス)ヲ以テス而シテ其屋内ニ竹簀座ヲ設ケ鹽俵ヲ造ル所トナス助壺ハ本壺ニ接近シテ設ケ上口長七間參分巾五間貳分底長五間橫貳間深サ五尺五寸ニシテ四壁及底部ハ厚壹尺ニ粘土ヲ打固メ以テ鹹水漏洩ヲ防ク四壁ノかいまわしハ底面ヨリ高サ四寸幅貳尺ノモノヲ置ク而シテ本壺へ鹹水ヲ輸送スルハ本壺ヨリへうたんへ輸送スル方法ニ同シ屋根ハ桁行九間梁行五間ノ草葺ヲ以テセリ

十 鹽田地盤ノ構造及性質

鹽田地盤ノ構造ハ下層部即天然層ハ砂礫ニシテ中層ハ中張ト稱シ粘土ニテ厚サ約壹尺ヲ

敷キ其上層部ハ上張ト稱シテ土砂貳寸ヲ以テ作りタルモノナリ

十一 撒砂(鹹砂)ノ種類、性質 撒砂ハ鹽田固有ノモノニアラスシテ山口縣熊毛郡淺江村ニ沿ヘル島田川尻ノ細砂ヲ

輸入シテ使用セリ(島田川流域一帯ノ地層ハ總テ酸化花崗質ナリ)古來當鹽田ニ撒布ス撒砂ハ鹽田所在近傍ノ砂ヲ使用シタリシモ鹽分ノ附着少量且鹽質ノ不良ナリシカ爲メ安政年間藤田傳吉ナルモノアリテ別記島田川尻ノ細砂ヲ輸送シ之ヲ使用セシ以來大ニ面目ヲ改メシヲ以テ爾來該砂ヲ使用スルコトニナレリ然ルニ該砂ヲ他ニ輸出スルコト土地人民ノ大ニ厭忌スルトコロナルヲ以テ公然之ヲ輸入スル能ハス陰ニ之ヲ採取シ來ツ、アリシカ今ヨリ 五年前熊毛郡三井村ノ人山本郁彦ナルモノ熊毛郡長ニ交渉セシ以來公然輸入スルコトヲ得タリト云フ要スルニ該砂ヲ使用スルトキハ鹽分ノ附着多量從テ鹽質良好且濾過ノ場合ニ於テモ粗質ノモノニ比シテ稍ヤ速カナリ

十二 撒砂(鹹砂)撒布量及替砂ノ數 鹽田地盤壹坪ニ要スル撒砂ノ重量五貫參百參拾匁容量壹斗貳升ニシテ季節ニヨ

リ其量ヲ増減スルコトナシ替砂ハ當地ハ替持ナルヲ以テ參替トナル即其日ノ鹹砂ヲ沼井ニ送ルトキハ前日ノ鹹砂即沼井中ニアルモノヲ沼井ノ肩ニ引上ケ前々日ノ鹹砂即沼井肩ニアルモノハ其ノ日ノ鹹砂採取ノ跡ニ撒布スルナリ

十三 撒砂乾燥ノ時間 撒砂撒布ノ時刻ハ各濱ニ於テ多少ノ差アレトモ午後一時ヨリ三時迄ノ間トス而シテ潮水浸潤

ハ主トシテ潮水干満ノ時刻ニ關係スルモノナルヲ以テ時ニ長短ナキ能ハス撒砂撒布ノ時恰モ滿潮時ニ會スル時ハ其ノ潮水ヲ直ニ浸潤セシメ尙ホ續テ夜ノ潮ヲ入ル、ヲ以テ其ノ場合ニ於テハ十時間前後ノ浸潤ヲナス又撒砂撒布ニ於テ干潮ナル時ハ次ノ滿潮ヲ俟テ入ル、ノミナレハ浸潤時間ハ僅カニ四時間位ナリトス其翌日ハ終日乾燥セシメ翌々日復々持目トナル然ルニ天氣ノ模様ニ依リ替持ヲ縮メ日毎ニ探鹹スルコトアリ是其翌日ハ雨天ヲ豫想スルヲ以テナリ

十四 撒砂(鹹砂)浸出裝置ニ注入スル海水水量及鹹水又ハもんだれノ採收量 撒砂ヲ濾過スルニハ該砂ヲ沼井中ニ盛リ

タル後沼井壺ニアル鹹水四斗五升ヲ沼井中ノ鹹砂ニ注入シ尙溝ニアル海水八斗ヲ注加シテ鹹水九斗ヲ得ルヲ通例トス尤モ時季及其日ノ氣象ニヨリ鹹砂ニ鹽分附着ノ多少アルヲ以テ時ニ鹹水ノ度ヲ計リ以テ海水ノ注加ヲ増減ス

十五 海水、鹹水及もんだれノ性質

海水 もんだれ	比重	溫度	成				分		
			鹽化曹達	硫酸石灰	硫酸苦土	鹽化苦土	鹽化加里		
海水	三〇	三〇	二六〇〇	〇・一九〇	〇・一五〇	〇・三〇	〇・四二		
鹹水	一四〇	三三〇	一五七三五	〇・四二二	一・一六七二	〇・一九二	〇・一〇〇		
もんだれ	八〇	一八〇	六六三六五	〇・四七二	〇・五八三八	〇・九三三	〇・五〇〇		

十六 海水引入排出(水閘)、海水汲揚装置及汲揚方法

海水ヲ地盤ニ引入ル、ニハ北方ノ潮入川ヨリ水閘ヲ通り地盤

ニ浸入セシメ之ヲ排出スルニハ南方地盤ノ樋ヨリ池沼ヲ通シテ外出スルヲ通例トス尤モ小潮ノ時ハ干潮ノ少クシテ地盤内ノ海水排出甚タ遅緩ナルヲ以テ陰曆毎月ノ八日ヨリ十一日ニハ地盤内ノ溝渠ニ潮水ヲ引入レサルモ自然外部ヨリ浸入スルモノヲ以テ之ニ充ツ又排出ノ場合ニ於テ時ニ依リ水閘ヲ開クモ海水湛ヘ地盤溝潮ノ十分去リ難キ場合ニ於テハ踏車ヲ以テ外溝ニ汲出スコトアリ

十七 海水貯溜池ノ有無、大小、深淺及面積

海水貯溜池ハ鹽田地盤稍高キ所ニアリテハ設置スルモアレトモ本調査

ヲナシタル當一ノ榭ハ之ニ反シテ土地低地ナルヲ以テ鹽田内排水用ノ爲メ一池沼ノ設ケアリ其ノ排水ヲナスハ陰曆毎月七八日ヨリ十一二日間ニシテ最小潮ノ時ナリ此ノ小潮ノ時ハ干潮甚少ク爲メニ一旦鹽田内ニ輸送シタル海水排出ノ際未タ充分流出セサルニ先テ復ヒ滿潮トナルヲ以テ此ノ時ニ於テ地盤ヲ乾燥セシメン爲メ鹽田内ノ海水ヲ大踏車ニテ汲出シ以テ池沼ニ堪エシム其ノ反別二町二反歩計リアリ

十八 鹽田一戸前又ハ一定反別ノ一ケ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合

一ケ年間平均鹹水採收量四千九百六十

一石二斗、平均比重十七度之ヲ月別トナセハ左ノ如シ

採 鹹 量	月 別	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
二四,四〇〇											
三七,六〇〇											
六九,九八〇											
七五,三〇〇											
四六,三〇〇											
一六,九八〇											
九,九八〇											
五〇,六〇〇											
三〇,〇〇〇											
三〇,四〇〇											

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

人夫ノ名稱、種類、員數、賃銀表

採鹹ニ要スル人夫ノ名稱	種 類	員 數	賃 一 人 當		採鹹ニ要スル人夫ノ名稱	種 類	員 數	賃 一 人 當	
			日	年				日	年
濱 子	定 濱 子	一	七、七〇	二八、一三	本 日 雇	寄 夫	五〇	〇、八〇	四〇,〇〇〇
同	定 脇	一	七、〇〇〇	八三、三六	日 雇	土 拾 夫	五〇〇	一、〇〇	五〇,〇〇〇
同	三 番	一	六、四〇〇	七四、一〇七	日 雇	沼 井 踏 夫	二五〇	一、〇三	二五、七五〇
同	炊 人	一	五、八〇〇	八〇、一〇六	日 雇	常 日 雇	八〇〇	三、六五	二九二,〇〇〇

備考 鹽田反別一町七反八畝二十七步 但シ持目數百二十五回ニ要スルモノ

二十 鹹水採收時季及採鹹量ト風位トノ關係 鹹水採收ノ時季ハ三月中旬ヨリ翌一月迄ニシテ最好ノ時季ハ五六七八

ノ四ヶ月間トス而シテ西又ハ北ノ風位ハ最モ良シトス

二十一 一年間ノ採鹹平均日數 持目百七日(内増持二十六日) 準備濱百三十五日

二十二 一年間ノ鹹水採收量

一 上田四千九百六十一石二斗(鹽田反別一町七反九畝十步)

一 中田一千九百六十六石四斗三升六合(鹽田反別一町七反九畝八步)

一 下田一千十二石六斗(鹽田反別一町七反五畝十八步)

二十三 準備濱及持濱其他採鹹ニ關スル操作ノ順序方法 事業開始毎年二月初旬頃ヨリ地盤ニ入替土ヲ運ヒ在來ノ撒

砂ト能ク搔キ交セ且ツ溝渠ノ埋リヲ浚エ上ケ沼井肩ニアル撒砂ヲ撒布シ次テ沼井中ニアル菰ノ更新等ヲナス之ヲ採鹹操作ノ準備トナス爾後ニハ地盤ニ溜マル雨水ヲ去ラシメ地盤稍ヤ乾燥スルトキハ降雨ノ爲メ沼井肩ニ堆積セル撒砂ノ地盤中ニ散流セルヲ沼井堀鍬ニテ舊位置ニ復ス之ヲ以テ雨後ニ對スルノ準備トナス當地持濱ハ總テ替持トス替持トハ各一戸前ノ鹽田ヲ二區ニ區分シ其ノ一區ツ、ヲ隔日ニ採鹹スルモノナリ尤モ天候ニヨリ一部ヲ日持トナスコトアリ此場合ハ一區ハ採鹹ノ定日ナルモ他ノ一區ハ其ノ翌日カ採鹹定日ナルヲ繰上ケ採鹹ヲ爲スモノナリ其ノ翌日降雨ヲ豫想シタルトキニ限ル採鹹ニ關スル操作ノ順序ハ沼井肩ニ堆積シアル撒砂ヲ撒布シ然後濱曳ニテちがいの操作ヲナシ次ニ掛板ニテ均シ置キ其ノ翌日ハ午前六時三十分頃ヨリ朝鍬ト稱シテよこ及ちがいの操作ヲ爲シ次テ中鍬ト稱スル操作ヲ爲シ午前十時頃ヨリ約三十分間よこノ操作ヲ爲ス(此ノ分ハ庄屋一人ニテナシ他ノ濱子ハ他方ノ地盤ノ沼井ヲ堀ル)其ノ翌日(持日ノ定日)午前十時頃沼井肩ノ撒砂ヲ地盤ニ下ケ沼井中ノ土ヲ肩ニ堀上ケ置キ次テ別紙圖ノ操作ヲナシ十一時頃又次ノ圖ノ操作ヲナシ午後一時過終リノ圖ノ操作ヲナシ數十分ヲ經テ寄セト稱シテ地盤中ノ鹹砂ヲ蒐集シ之ヲ沼井中ニ盛り而シテ沼井壺中ノ鹹水ヲ注入シ尙ホ之ニ次イテ溝渠ノ潮水ヲ注加シテ鹹水ヲ採收ス之ヲ採鹹ノ操作順序トス

乙 鹹水煎熬

- 一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積
釜屋ハ木造ニシテ家根ハ藁ヲ以テ葺キ入口ニケ所アリ二方ハ石垣ニテ圍ヒ二方ハ壁ヲ塗り頂上ニ天窓ヲ設ケ屋内ノ水蒸氣及煤烟ヲ排出スルニ便ス中央ニ竈アリテ結晶釜ヲ据ヘ竈ノ後方ヨリ斜ニ屋外ノ煙道ヲ通シ温メ釜後釜ハ煙道ニ設ケ以テ火力ヲ利用ス結晶釜側方かいさきノ下ニにがり壺アリ其ノ後方壁ニ接シテ居出場ヲ設ケ居出場ニ隣接シテ疊一枚敷位ノ釜焚人ノ寢室ヲ設ク此ノ寢室ハ一尺位ヒノ高サニ板床ヲ張り四面ニ蓆ヲ垂シタルモノナリ又タ温メ釜ノ後ニへうたん壺アリテ鹹水溜ヨリ竹樋二本ヲ通シテ鹹水ヲ輸送ス石炭貯藏場ハ竈ノ前側外ニ設ク(圖面參觀)

- 二 釜及竈ノ種類、構造、大小、製造原料及釜ノ深淺

釜ノ種類結晶釜、温メ釜、後釜ノ三種アリ結晶釜ハ底部ヲ石ト

シ鐵鈎ニテ釣リ温メ釜ハ鑄鐵製ニシテ後釜ハ鐵板ニテ製ス竈ハ土ヲ掘リ下ケテ土井ヲ作り舟底形ニナシタルモノナリ詳細ハ次項竈ノ築造法ニ讓ル(圖面參觀)

三 石釜及竈築造方法及築造後使用ニ至ルマテノ操作

竈ノ築造法ハ最初長サ一丈一尺横八尺ニ地面ヲ區劃シ中央四

尺五寸迄横斷シテ巾一尺三寸位ヒ深サ二尺位ヒニ掘リ下ケ後チ前縁トナルヘキ處ニ二本ノ根太後面ノ縁トナルヘキ處ニ一本ノ根太ヲ置キ此上ニ粘土五六寸ヲ盛り乾燥スルコト五六日間ニシテ根太ヲ去リ次ニふちきりなたヲ以テ縁ヲ削リ巾八寸厚サ三寸ト定ム此ノ削リタル餘分ノ土ヲ竈ノ底ト爲シ槌ヲ以テ打固ムルナリ兩側ハ中央ニ向テ斜ニ掘リ下ケ舟底形ト爲ス後部ハ壁モ同様ノ勾配ヲ以テ中央ニ傾斜ス然ル後煙道ヲ穿チテ温釜ノ竈ニ達セシム次ニ竈ノ口底ヨリ一尺六寸ノ高サノ處ヨリ煙道口ノ下迄さなすけヲ渡シ之ニさないた四枚ヲ横ニ並ヘ次ニ粘土ヲ厚サ五六寸ニ布キ尙其兩側ニさなあみヲ作り土井ニ達セシム石釜ヲ築造スルニ最初竈ノ四邊ノ縁ニ枕石ヲ敷キ次ニ竈ノ各側ニ二個ノ根太木ヲ置ク此ノ根太木ハ各端ヨリ凡ソ二尺隔リタル處ノ縁ノ外ニアリ之ニ根太木二本ヲ架シ其ノ上ニ釜板ヲ並ヘ次ニ釜板ノ周圍ニ耳泥ト稱シテ厚サ五分巾六寸ニ粘土ヲ布キ後釣リ割ヲ配置ス(釣リ割トハ鐵鈎ノ配置ヲナスモノニシテ長サ七八寸ノ割竹ニテ作りタルモノナリ而シテ七本ツ、四行トス)次ニ一邊ヨリ釜石(長巾各五寸ヨリ厚サ一尺三四分ノ花崗石)二百八十乃至三百枚ヲ竝ヘ其ノ繼目凡ソ六七分ノ間ヲ粘土石灰及鹽(配合量石灰六貫目粘土三斗鹽三斗)トヲ混合シタルモノヲ以テ堅ク目塗りヲナシ而シテ縁金ヲ四邊ニ置キ四隅ハ角金ヲ以テ緊結ス次ニ釣割ヲ抜キテ鐵鈎ヲ挿入ス此ニ於テ釜内ニ松割木五拾把(長サ一尺五寸廻二尺七寸)松葉四把藁莖十二枚ヲ覆ヒ之ニ火ヲ點シ焚クコト凡ソ六時間位ニシテ釜ノ前面固着スルヲ認メタル後四方ニアル男柱ニ口徑四寸ノ桁ヲ渡シ之ヲ連結スル爲メ其ノ兩端ヨリ梁木(土俗ニこぼし)ヲ架シ四隅ヲ支エ之レヨリ鐵線ヲ以テ之レニ桁ト平行シテ釣木七本ヲ渡スこぼしノ各端ヲかごがいト稱スル長サ二尺五寸徑一寸ノ棒ヲ以テ竈ノ四隅ヲ支エ夫ヨリ鐵線ヲ以テ鐵鈎ニ掛ケ釣木ニ連結ス釣リ木ノ上端鐵鈎ノ下ニ楔ヲ入レ此ノ楔ニ依テ釜底ノ高低ヲ直スナリ此ニ於テ豫テ敷キ置キタル釜板ヲ抜キ取り夫レヨリ周圍ノ縁ヲ粘土ニテ高サ四寸厚サ三寸ニ塗り上ケ且竈ノ四壁釜トノ間隙ヲ悉ク塗りタ

ル後竈内ニテ石炭ヲ焚キ釜ノ全面熱シタル時前ニ溫釜ニテ溫メ置キタル鹹水ヲ汲ミ入ル、ナリ此ノ鹹水ハ普通ノ鹹水一釜分ニ鹽三斗ヲ入レテ濃厚トナシタルモノナリ最初ハ釜底ヨリ多少鹹水ノ漏洩スルモノナルヲ以テ摺リ込ミ鹽或ハ石灰ヲ其ノ漏洩スヘキ處ニ擦塗ス故ニ最初ノ二三釜分ハ常ニ黒灰色ヲ帶ヒタル(通常黒鹽)鹽ヲ出ス之ヨリ漸次ニ鹹水ト苦汁ヲ差シ煎熬ス

溫メ釜ハ鑄鐵ニテ製ス口徑三尺深一尺八寸容量一石八斗前後トス(釜ニ因テ多少ノ差アリ)結晶釜ノ後ニ隣接シテ設クヘウたんヨリ鹹水ヲ此ノ釜ニ送り十分沸騰セシメ而ル後之ヲ結晶釜ニ送ルナリ

後釜(鐵釜ニシテ通稱後釜ト云フ後部ニアルヲ以テナリ)鐵板ニテ長サ四尺四寸巾二尺八寸深サ二寸九分ニ製ス溫釜ノ後部稍ヤ斜ナル煙道ノ上ニアリ本釜(石釜)ノ餘炎ヲ利用シテ煎熬ス

築造材料表 (圖面參觀)

原料	名	稱	長	幅	厚	員數	原料	名	稱	長	幅	厚	員數
木	さなすけ		三、六〇	一、四〇	一、〇〇	一	木	かせ木		一〇、八〇	四〇	一	二
木	ねだ	板	一三、五〇	五、五〇	五、〇〇	二	木	ころばし		二二、〇〇	四〇	一	二
木	釜し	板	八、七〇	五、五〇	一、〇〇	一	木	つりぎ		九、三〇	四〇	一	七
土	釜し	く	五、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	五	鐵線	つり金		一	一	一	二
石	釜	石	六、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	二	木	さないた		四、〇〇	一三、〇〇	一	四
鐵	縁	金	二、四〇	〇、〇六	〇、〇六	二	木	ねだすけ		一、〇〇	八〇	一	四
鐵	すみ	かね	三、三二	〇、〇五	〇、〇五	四	木	かごがい		一、八〇	一〇	一	四
鐵	つ	り	九、〇〇	〇、〇四	〇、〇四	二	木	てこもたせ		七、〇〇	三〇	一	一
石	男	柱	三、五〇	八、〇〇	七、〇〇	四	木	楔		六、〇〇	四〇	二	五

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル装置、構造及方法

鹹水溜ヨリ竹管ヲ以テヘウたんニ通シ鹹水ヲ導クナリ此樋ハ鹹水溜ノ

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及方法 (圖面參觀)

底ヨリへうたんノ底二尺ノ處ニ通ス二本ノ樋ノ内上部ニ在ルモノヲうは樋ト稱シ下部ノモノヲ道樋ト云フ(圖面參觀)

名稱	種類	員數	使用	方法
挺子鐵	鐵	二	物見ヨリ火ヲ掻交セニ用ユ	
たきひき	同	一	石炭殻ヲ引出スニ用ユ	
大十能	同	一	石炭ヲ燃クニ用ユ	
くべ十能	同	一	石炭ヲ籠ニ入レル用ニ供ス	
ふちきりなた	同	二	釜縁ニ附着シタル鹽ヲ除去ス	
すみわりなた	同	一	石炭ヲ細ク割ルニ用ユ	
ふちきりがま	同	一	釜底ニ鹽ノ焼付ヲ除去スルモノ	
こーら起	同	二	物見ノ蓋ヲ取ルニ用ユ	
きり	同	一	石炭ヲ燃クニ用ユ	
割十能	同	一	釜中ノ鹽ヲカイサキニ押集スルニ用ユ	
たし柄振	木、金	一	釜中ノ鹽ヲカイサキニ取出スニ用ユ	
どり柄振	木	一	釜中ノ鹽ヲカイサキニ取出スニ用ユ	
鹽取	竹	一	鹽ヲ入レルニ用ユ	
苦汁	木	一	カイサキニ置キ苦汁溜用トナスモノ	
瓢箪	同	一	鹹水ヲ温釜ニ注加スル準備ノ用ニ供ス	
瓢箪	同	一	ヒヨウタンノ鹹水ヲ温釜ニ汲取ルニ用ユ	
苦汁柄	同	一	苦汁ヲ釜ニ注加スルニ用ユ	
釜	同	一	温メヨリ結晶釜ニ入レルニ使用ス	
芻	同	一	カイサキノ鹽ヲ居出ニ移スニ用ユ	
炭籠	竹	一	タキダニ炭ヲ運フニ用ユ	
炭芻	木	三	石炭ヲ炭籠ニ入ルニ用ユ	
石穀	木	一	石炭殻ヲ除去スルニ用ユ	
らん	同	一	夜釜ノトキ點火用	
温メ起	木	一	温メ釜ヲ他ノ温釜ト交換ノ際芻ネ上ケニ用ユ	
摺リ込	木	二	釜ノ漏ルトキ釜ノ底ヲ摺ルニ用ユ	
たき	同	一	竈口ニ設ケ少量宛石炭ヲ出シ置ニ用ユ	
水見	同	一	温釜ノ水平ヲ見ルニ用ユ	
腰掛	同	一	釜焚ノ休息ヲナスニ用ユ	
油徳利	陶器	一	石炭油入レ	
瓢箪	竹	二	へウタン柄杓ノ上ケ下ケノ用ニ供ス	
ばす	同	一	釜ノ漏リ出シタルトキ用ユ	
戸	木	一	温メ釜ヨリ結晶釜ニ鹹水ヲ移ス際ニ用ユ	
温めかき	同	一	温釜ヲ擔クニ用ユ	
温メ招キ	竹	一	温釜ヨリ鹹水ヲ結晶釜へ移ス際ニ用ユ	
斗	木	一	鹽ヲ量ルニ用ユ	
もつこ	繩製	六	鹽後又ハ石炭殻ヲ運フニ用ユ	
樋	木	四	竈築造ノ際粘土ヲ叩クニ用ユ	
ごろつち	同	一		
梶掛	同	一	鹽ヲ枺量スルニ際ニ用ユ	
梶	同	一	同	
かき灰桶	同	一	石釜築造ノ際石灰ヲ煉ルニ用ユ	
かごすけ	同	一	苦汁桶ニ鹽取籠ヲ置ク時桶ニ渡ス	

六 釜其他煎熬用器具ノ新調費、修繕費及保存期限

種目	新調費	修繕費	保存期限	摘	要
結晶釜	二七、三八 ^円	九、〇〇〇	自四十日至五十日		
温メ釜	九、〇〇〇	二、〇〇〇	二ケ年		
てこ	一、三八〇	三、〇〇〇	二ケ年	目方百目ニ付三十三錢凡二十八貫位ヒ	
たきひき	九、六〇	三、〇〇	二ケ年		
六十能	一、二〇〇	六、五〇	二ケ年		
くべ小能	五、五六	四、五〇	二ケ年		
縁切り斧	一、二〇	三、二〇	一ケ年		
炭割斧	五、〇〇〇	三、〇〇	二ケ年		
釜屋鎌	二、二〇	一、〇〇	一ケ年		
こゝら起	一、七〇	四、〇〇	一ケ年		
錐	一、一〇〇	一、〇〇	二ケ年		
割十能	一、四〇〇	三、〇〇	二ケ年		
たし柄振	二、八〇	一、〇〇	一ケ年		
取リ柄振	〇、八〇	一、〇〇	七日		
炭取籠	二、八〇	一、〇〇	七日		
苦汁溜	四、〇〇	一、〇〇	百廿日		
瓢箪	一〇、〇〇〇	一、〇〇	十ケ年		
瓢箪上げ	二、八〇	一、〇〇	六ケ月		
苦汁柄杓	二、五〇	一、〇〇	二ケ年		
刳櫂	一、〇〇	一、〇〇	六ケ月		
炭籠	一、五〇	一、〇〇	五十日		
炭刳櫂	三、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
石殻鍬	五、〇〇 ^円	一、〇〇	一ケ年		
らんぶ	四、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
温め起シ	六、〇〇	一、〇〇	二ケ年		
摺込	一、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
たきだ	八、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
水見	三、〇〇	一、〇〇	二ケ年		
腰掛	七、〇〇	一、〇〇	二ケ年		
油德利	一、五〇	一、〇〇	一ケ年		
招キ竹	一、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
ばすら	〇、八〇	一、〇〇	一ケ年		
すり	〇、五〇	一、〇〇	一ケ年		
釜入り	三、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
もつこふ	二、五〇	一、〇〇	六ケ月		
つち	二、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
ごろつち	一、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
温め搔	一、五〇	一、〇〇	一ケ年		
樹掛	一、五〇	一、〇〇	一ケ年		
樹掛	一、〇〇	一、〇〇	三ケ年		
かき灰桶	一、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
かごすけ	一、〇〇	一、〇〇	一ケ年		
どひ	五、〇〇	一、〇〇	二ケ年		
しく	〇、一〇	一、〇〇	一ケ年		

鈞	三〇〇	二ケ年	縁切鎌	三〇〇	一ケ年
角	四〇〇	二ケ年			
金					

七 燃料ノ種類、名稱、產地、價格及品質

種類	類名	稱	產地	價	格	品	質
石炭	元山炭		山口縣厚狹郡宇部村	三十六年百斤ニ付九錢五厘		不	良
同	三池炭		福岡縣三池郡大牟田三池炭坑	三十五年百斤ニ付二十四錢 三十八年同 四十五錢		最	良

八 一釜ニ使用スル鹹水ノ容量及製鹽等級別數量、一釜ニ使用スル燃料ノ數量

一釜分 鹹水容量 一石八斗(外ニ苦汁三斗二升但シ前釜ノ分)
 比 重 平均十七度(ポオメー氏)
 温 度 平均二十度(攝氏)

一釜分 製鹽 七斗平均重量百八十五斤(時季ニ依リ鹹水ノ善惡且ツ釜築造ノ良否苦汁注加ノ多少ニ依リ從前ト雖モ鹽ノ善)
 一釜分 燃料 三池炭平均二十六斤六分元山炭平均百一斤ナリ尤モ釜築造ノ終始及良否ニ依リテ燃料ニ凡ソ十斤ノ差ヲ生ス

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合 石炭混合ハ三池炭一ト元山炭四ト其ノ比殆ント同シ元來當地ハ製鹽ニ用フ

ル石炭ハ概シテ廉價ナル不良質ノ元山炭ヲ用ユルヲ以テ三池炭ヲ用ヒサレハ十分發火セサルヲ以テ換言スレハ三池炭ハ發火ノ媒介ヲナスニ用フ

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スルカ爲メ之ヲ濾過スル裝置ノ有無、構造及方法 該當記事ナシ

十一 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數賃及銀

鹹水煎熬ニ要スル人夫名稱	種類	員數	一人當賃銀	總賃銀
釜 焚	大工	一	三七〇 ^円	七九 ^円 一八〇
釜 焚	ろーそー	一	三七〇	七九 ^円 一八〇
釜 番	釜 番	一	二六〇	七八〇〇

十二 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量並ニ其收鹽量

一晝夜分	釜數	鹹水量	收鹽量	製鹽重量
一	一五	110,000 ^斤	10,500 ^斤	一六 ^斤 二七五

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量 製鹽總量二千四百五十石此重量二十七萬九千七百五十斤

十四 居出場ノ構造、大小、廣狹 居出場ハ苦汁壺ノ後方釜屋ノ壁ニ接シ長サ一間ニ巾三尺高サ四尺前後ニ三方ヲ松板

ニテ圍ヒ其ノ内部ヲ葦ニテ張り其ノ長サノ一方ヲ明ケ中通一間ヲ隔テ相對シテ二個ヲ作りタルモノナリ然ルニ本年專賣法實施以來更ニ一ヶ所ヲ増シ在來ノ中央ニ屋外ニ突出シテ之ヲ設置セリ而シテ在來地盤深サ一尺四五寸ヲ堀上ケ之ニ換フルニ細砂ヲ埋メ以テ苦汁ヲ去ルニ速カナラシム(圖面參觀)

十五 煎熬ニ關スル操作及其方法 最初温メ釜ニテ煮沸シタル鹹水ヲ結晶釜(石釜)ニ移シテヨリ凡ソ一時間半内外ニ

シテ漸ク結晶ノ狀ヲ呈セントスルトキハ苦汁壺ニアル苦汁(二三斗)ヲ汲ミ入ル、ハ普通差鹽ノ煎熬法ナルモ初釜ノ時ハ注加スル苦汁ナキヲ以テ二釜目ヨリ注加スルモノトス(尤モ今日ニ於テハ製鹽不良ナルトキハ苦汁ノ幾分ヲ減スルコトアリ)斯ク苦汁ノ注加ヲナシ後數十分時ニシテ結晶スルヲ以テ直チニ釜中ノ鹽ヲつきわぶりニテかいたさき(鹽ヲ搔出ス釜口)ニ押寄セ置キごりわぶりニテ之ヲかいたさきノ下ニ豫テ据エ置キタル鹽籠ニ悉ク搔込ミ(七分位搔込ミタル時釜中ニ焦ケ付クルノ恐レアルヲ以テ温釜ヨリ七八升ノ鹹水ヲ汲込ミ尙ホ鹽ヲ搔キ取ルナリ)同時ニ温釜ノ鹹水全部ヲ結晶釜ニ送り温釜へへう

たんヨリ鹹水ヲ汲込ミ置クナリ是ニ於テ一釜ノ煎熬操作方法ヲ卒ルモノトス而シテ鹽籠ニアル鹽ハ凡ソ一時間ノ後之ヲ居
出場ニ移シ順次一日分數釜ヲ堆積シ置クモノトス

釜築造後當初ノ三釜ハ灰黑色ヲ帶フル鹽ヲ産シ漸次鼠色ニ變シ五六釜ノ後純白色ヲ呈スルニ至ルモノトス

鐵釜ハ最初ヨリへうたんノ鹹水ヲ入レ煎熬シ火力ハ結晶釜ノ餘炎ヲ利用スルモノナレハ凡ソ六時間ニシテ結晶ス即鹹水四
斗ヲ入レ煎熬スル時ハ比重十六度ノ時製鹽一斗一升前後ヲ得其ノ重量十五斤内外トス此煎熬方ハ苦汁ヲ注加セス全ク眞鹽
焚ナルヲ以テ重量差鹽ニ比シ稍ヤ輕シ而シテ結晶後ニ於テハ釜中ノ全部ヲ其ノ傍ニ豫テ備ヘ置キタル籠ニ搔取り更ニ居出
場ニ堆積シ置クナリ

十六 從來使用シタル釜及竈ノ變遷並ニ使用燃料ノ變遷

釜ノ變遷 今ヨリ四十年前ハこいし釜ト稱シ河川ニ散在セル黑色ノ平偏ナル石ヲ以テ釜ヲ築造セシメ爾後今日ノ如ク花
崗石ノ割リタルヲ用ユルニ至レリ

燃料ノ變遷 今ヨリ七十餘年前即チ一ノ榭鹽田開作以後十餘年間ハ松割木ヲ主トシ之ニ松葉ヲ加エ燃料トセシモ爾來漸
次石炭ヲ使用スルコト、ナリ明治二十四五年迄ハ筑前炭ヲ主トシ三池炭ノ幾分ト且ツ元山炭ノ良質ノ部分ヲ撰擇シテ使
用セシカ爾來石炭價格ノ昂騰甚シキヲ以テ終ニ現今ノ如ク稍ヤ劣等ナル元山炭ヲ主トシ三池炭ノ少量ヲ加ヘ使用スルニ
至レリ今其ノ比ヲ掲クレハ二十四五年前ニテハ

筑前炭十分ノ六 元山炭十分ノ二

明治二十四五年以降ニハ

元山炭十分ノ八 三池炭十分ノ二ヲ混合使用スルニ至レリ

十七 煎熬ニ關スル其ノ他ノ事項 前項ニ記セル如ク當地ニ於テハ鐵釜ヲ石釜ノ後部ニ据ヘ石釜ノ煎熬ノ餘炎ヲ利用

シツ、煎熬スルモノ八戸アリ此ノ鹽ハ差鹽ニ比スレハ色澤一層純白且ツ良質ナルモ土地ノ習慣上之ヲ厭忌ス其理由トスル

所不得要領ナレトモ以前之ヲ使用シテ味噌或ハ醬油ヲ製造セシニ何レモ苦味アリテ殆ト使用ニ堪ヘサリシコトアリシト玆
 ヲ以テ鐵釜ハ全ク休止シアリシカ專賣法實施以來之ヲ試ミルモノアリテ其ノ鹽質ヲ分析調査スルニ其ノ結果頗ル良好ナリ
 シ故漸次増加スルニ至リタリ然レトモ鐵釜ノ製鹽高ハ最小額ニ止マルヲ以テ到底當地製鹽高ニ影響スルコトナシ
 元來鹽ノ品質ニ從ヒ價格ニ差ヲ生シタルカ如キコトナカリシヲ以テ唯タ産額饒多而已ヲ計リ居レリ故ニ品質改良等ニ付テ
 ハ眼中殆ント是ナカリシナリ然ルニ新制實施以來品質ニヨリ等級ヲ付シ從テ價格ニ大差ヲ生スルヲ以テ大ニ面目ヲ改メ改
 良ニ注視スル觀アリ即チ差鹽ニ於テハ苦汁壺へ底部ノ汚物ヲ混淆セル苦汁ヲ廢棄シ或ハ苦汁ノ注入量ヲ半減シ或ハ時ニ全
 部ヲ省ク等目下切リニ改良ニ汲々タリ

十八 一年間ノ平均煎熬日數 平均熬煎日數二百十四日

十九 一年間ノ平均收鹽量 平均收鹽量(重量三十七萬九千七百五十斤) (容量二千四百五十石)

二十 一年間ノ採鹹及煎熬總費用

上鹽田ノ支出總額 一千九百四十圓(段別一町七反六畝二十步)

中鹽田ノ支出總額 一千九百三十四圓(段別一町七反八畝二十七步)

下鹽田ノ支出總額 一千六十八圓八十六錢二厘(段別一町一反八畝二步)

二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算法(明治三十六年度)

收 入	金 額	備 考
鹽 代 金	二八五、三三三	二千二百四十七石一百石ニ付百二十八圓四十一錢
計	二八五、三三三	
支 出	二六〇、三九六	
石 炭 代	四九、二〇〇	一振十一錢五厘一晝夜ニ付二十振釜焚日數二百十四日

運	會	雜	石	修	家	樋	鹽	石	子	藁	礮	沼	繩	擔	鍬	金	溫	入	赤	石	薪	釜	塗	
搬	所		殼	繕	根	普	籠	炭	竹	子	子	井	菰	桶	物	釜	釜	換	土	灰	木	石	灰	
費	費	費	費	費	費	請	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	
七、九〇四	三、〇〇〇	八、〇〇〇	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇	四、四〇〇	一三、〇〇八	二、五〇〇	一、七六	四、三〇〇	八、六〇〇	二〇、三三〇	六、〇〇〇	二、六七〇	一、五七四	二、〇〇〇	二、四〇〇	一、四〇〇	七、六〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇		
一俵ニ付三厘二毛(二萬二千四百七十俵)	但組合費共		一日分四錢				一個二十錢二十二個分	一夜三合五勺一斗代金一圓七十五錢	一本ニ付二厘五毛千本代	沼井用藁一臺ニ付二把一ニ付八厘二百十六把分	沼井百八臺一臺ニ付二個ツ、二回ニテ四百三十二個一個一錢	一臺ニ付二枚一枚ニ付四錢百八臺	一斗入一俵九厘(二萬二千四百七十俵)	六荷分一荷代金一圓	沼井廻鍬十挺一挺六十三錢沼井堀鍬十挺一挺六十錢寄鍬十挺一挺四十二錢五厘刎掛	緣金(隅金共)八圓八十錢釣金一本十四錢三厘二十八本分十能一個七十五錢火箸一本	温目釜一個平均八圓一年間平均一個半ノ割	春濱始メニ使用上荷船一艘(百振積)代金一圓二十錢一年間二十艘	一竈分三十五錢四回分	一竈ニ付二俵一俵十錢四回分	大東五十把一把三錢二厘古莖十二枚一枚ニ付二錢五厘一年間四回分	一釜分三百個一年間四釜分一個代金一錢	一竈ニ付一石五斗一斗代金二錢四回分	

(十三) 三田尻鹽務局下松出張所ノ部 第三章 製鹽方法 乙 鹹水煎熬

収入金額	備	考
利息	運轉資本一戸前五百圓(利率月一步十ヶ月分)	
下拵費	人夫賃十二人	
女日雇	鹹砂寄五人一人五錢小供二人一人五錢百二十日	
沼井踏	二人一人ニ付八錢百二十日	
土拾費	春仕入ノ時人夫百人一人金三十五錢	
水取賃	六人一人金八錢	
濱子飯米代	一人一日ニ付七合二勺ツ、濱子四人總石數八石六斗四升一石ニ付十二圓五十錢	
濱子月別手當	濱子四人十圓五十錢一人八圓五十錢一人七圓八十錢一人七圓二十錢一人	
釜焚日別手當	一五、三〇	
酒肴料	二、五〇〇	
賞與金	五、〇〇〇	
加調金	八五、八三	
合計	六百六十石平均相場百石ニ付百二十八圓四十一錢内四十一圓六十七錢四厘見下	

合計金二千六百三圓九十九錢六厘

二十二 採鹹煎熬其他ニ關シテ進歩シタル點、改良ヲ要スヘキ點等 採鹹ニ付テハ現今ハ以前ヨリ撒砂ヲ多量ニ使用

ス故ニ鹽分ノ附着隨テ多キカ如シ

煎熬ニ付テハ前十七項ニ陳ヘタルカ如ク良質ノ製鹽ヲナスニハ釜底ヲ厚クシ苦汁ノ注加ヲ減シ若クハ全廢シテ眞鹽焚トナ
 スニアリ然レトモ釜底ヲ厚クスレハ石炭多量ヲ要シ苦汁ノ注加ヲ減スレハ製鹽量少ク全廢スレハ多大ノ減少ヲ來シ收支相
 償ハサルカ如シ目下講究中ニ屬スルヲ以テ今茲ニ確述スルコト難シ

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別各別ノ數量 當地ハ主ニ差鹽ニシテ眞鹽ニ至リテハ最小部タル鐵釜ノ煎熬ノミニ止マルコト

前ニ述ヘタルカ如シ鐵釜ニ於テハ近來休止シ本年六月以後開始セルモノナリ

差鹽(石釜ニテ煎熬ノモノ) 一晝夜ノ製鹽量十五石五斗 苦汁混合ノ割合鹹水一〇、ニ對シ苦汁一、〇六

眞鹽(鐵釜通稱後釜ニテ煎熬セシモノ) 一晝夜製鹽量四斗四升

二 鹽ノ理化學的性質

理學的性質 色澤ハ各濱及各製鹽場ニ依リテ多少ノ相違アレトモ當下松鹽ヲ以テ全國一般鹽ニ比スル時ハ先ツ普通鹽ニ

シテ時トシテハ純白色ノモノヲ産スレトモ或ハ帶赤、帶褐、灰色ノモノヲ産ス殊ニ天候ノ爲メ鹹水ノ良否ニ關シテ色澤ヲ異ニス結晶普通(細微又粗大ノモノアリ)

化學的成 分

水分	鹽化曹達	硫酸苦土	硫酸石灰	鹽化苦土	鹽化加里	不溶解物
一三、二九七	七二、二六〇	四、八六六	一、〇一八	三、八二六	一、一〇四	一、七二六

三 鹽主要ノ用途

ハ重ニ肥料ニ供ス

用途ハ重ニ味噌、醬油製造ニ用ヒ其他ハ魚類鹽藏用、蔬菜漬物用等ニ供ス又黑鹽ノ劣等ナルモノ

四 鹽(各等級)ノ容量及重量

行以後ニ係ルモノナリ

從來ニ於テハ鹽ノ等級ナカリシタメ之ヲ區別スルコト難シ左ニ記スルモノハ專賣法施

等 級	容 量	重 量
一	同	二貫四百八十匁
五	同	二貫五百七十匁
四	一斗	二貫七百七十匁
等外ノ	同	二貫七百七十匁

五 苦汁ノ用途 差鹽焚ナルヲ以テ苦汁ヲ鹹水ニ混合煎熬スト雖モ製鹽粗惡ノ現象顯ハル、時苦汁注加ノ量ヲ減シ煎

熬スルヲ適例トス此ノ場合ハ苦汁ノ殘存スルコトアルモ他ニ利用スルコトナシ

六 苦汁ノ利用方法 該當記事ナシ

七 苦汁生産量 一ケ年間生産量千二百七石二斗 但シ一釜三斗二升一晝夜十五釜ニシテ二百十四日分

八 苦汁貯藏装置及貯藏方法

九 苦汁一石ノ賣買價格

十 苦汁ノ運搬方法及其ノ販路

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造装置及製造方法

右四項該當記事ナシ

十二 副産物ノ種類、名稱及用途 第十四項參照

十三 副産物ノ價格及販路 第十四項參照

十四 鼠鹽、かいさび鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽産出額及其使用方法

粗惡鹽種類	使用方法	販路	價格
鼠鹽	食鹽ニ混和ス	食鹽ニ同シ	食鹽ニ同シ
かいさび鹽	肥料	農業家	一ケ年産出五十貫 十貫ニ付二十錢
泥鹽	沼井ニ戻ス	農業家	ナシ
居出鹽	肥料	農業家	一ケ年五十貫 十貫ニ付三十錢
釜立鹽	釜築造用	農業家	販賣セシコトナシ

第五章 鹽ノ包裝鹽ノ數量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量

一包裝鹽ノ數量	一俵當容量	一俵當重量
一斗四升入	一斗三升六合	二十一斤
九升入	九升一合	十四斤一分

二 包裝ノ形狀、種類 包裝ハ總テ俵トシ形狀大小アルノミニシテ一定セリ(圖面參觀)

三 包裝編製方法及原料 包裝ハ藁製ノ菰ニシテ之ヲ俵トシ小口ヲ桔梗花形ニ作り胴繩ヲ懸ケタルモノニシテ従前ハ頗ル粗製ナリシモ近來稍改良ヲ加エ一般改良俵ニ非ラサレハ使用スルコトヲ許サス其ノ良否ハ鹽田會所ノ規程ニヨリ會所役員ノ検査ヲ經タルモノヲ使用スルニ至レリ

四 各種包裝ノ價格 一斗四升入七厘 九升入五厘

五 包裝ハ一重又ハ二重ナルカ又ハ其大小、形狀等又販路先ニ依リ差異ノ有無 包裝ハ一重トス(圖面參觀)

六 販路先ニヨリ異動スルモノヲ舉クレハ因幡國、伯耆國向ハ一斗四升俵 出雲、石見、九州一圓向ハ九升俵ナリ

六 包裝ニ附記スル商標其ノ他記號ノ種類、形狀、大小 鹽菰ニ押捺スル印章

西濱印章 (下) (徑一寸三分) (改) (縱二寸横三寸) 各製造者濱名烙印 (カ) (徑一寸二分)

東濱印章 烙印 (宮) (徑一寸三分) (改) (縱三寸横二寸) 各濱名烙印 (何々) 押捺ス而シテ商標ナシ但シ東西兩濱ニ

改 及 改良 ヲ付シタルハ菰ノ改良検査ヲ卒ヘタルノ證ニシテ菰検査役ナルモノノ押捺シ東ハ赤色西ハ青色トセリ且

ツ各濱名ノ烙印ハ各個濱ノ頭字ヲ取リタルモノニシテ菰検査章印ノ外ハ總テ各濱屋ニ押捺ス

七 秤量器ノ種類、形狀、大小及材料 枴ハ度量衡法ニ據ラスシテ古來ヨリ圓形ノ桶ヲ使用シツ、アリ材料ハ竹木等

ヲ用ユ(圖面參觀)

第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小 壁床ノ構造 倉庫ハ木造屋根ハ大底瓦葺ニシテ四圍土壁トシ奥行五間半間口二間半ナリ一間

ノ入口ヲ設ケ奥行二間ノ處ヨリ壁ヲ以テ庫内ヲ區劃シ中央ニ一間半ノ通行口ヲ設ケ前ヲ物置キ奥ヲ貯鹽場トス床ハ凡テ土砂ヲ打固メタルモノナリ倉庫外壁ニ添フテ一間半ノ庇ヲナシ此ノ位置ハ倉庫ノ位置ヨリ凡ソ四尺位ヒ低クシテ石炭貯藏場ニ充ツ(圖面參觀)

二 貯鹽方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度狀態 倉庫内ニ撒鹽ニテ堆積貯藏シ尤モ空氣ノ流通ヲ避ケリ買主ノ

都合ニ依リテハ包裝ノ儘貯藏スルコトアリ包裝鹽ノ貯藏ハ冬季ハ包裝ノ損傷ナキモ夏季ハ苦汁ノ滴出多量ニシテ一二週間ヲ超ユレハ包裝ニ苦汁滲出シ外觀ヲ損スルコト甚シキヲ以テ包裝替ヲ爲スコトアリ故ニ此季節ハ包裝ノ儘貯藏スルコトナシ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積載方法 俵裝鹽ノ積揚ハ其ノ大小ニ依リ差アリ九升俵ハ五俵一斗三

升六合俵ハ四俵五斗俵ハ二俵ヲ通例トス然レトモ製造場ノ倉庫ニ限リアルヲ以テ往々其ノ制限ヲ超フルコトアリ

四 一年間ニ於ケル眞鹽、差鹽ノ各貯藏步減及滴出苦汁量 差鹽ハ製鹽ノ季節ニヨリ步減ニ増減アリテ梅雨(舊五月)

ノ節迄ノモノハ一割五步梅雨及夏季ノモノハ二割ノ步減ナルモ單ニ容量ノ經驗ニシテ重量ニ至テハ不明ナリ苦汁量不明

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置

六 古積鹽ノ製造方法製造期間ニ於ケル鹽ノ步減ノ割合

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床四壁ノ構造

右三項該當記事ナシ

第七章 鹽ノ販賣

一 從來ニ置ケル鹽販賣ノ方法 鹽ノ販賣方法ハ必ス問屋ノ手ヲ經テ之ヲ行フ即チ鹽ノ注文アル時ハ問屋ハ之ヲ鹽田

會所ニ請求シ會所ハ商業掛ヲシテ鹽ノ價格ヲ定メシメ然ル後問屋ト賣買契約ヲナス契約相定マル時ハ問屋ハ直ニ會所ヨリ

ノ書回ヲ以テ各濱ヲ巡リ所要俵數ヲ調エシム其ノ翌日會所ハ鹽検査役ヲ出シ問屋及買主ト同行セシメ各濱ニ就キ鹽ノ俵數
拔検査ヲ行ハシム代金ノ授受ハ契約ノ時保證金トシテ買手ヨリ二割ヲ問屋ニ渡シ鹽全部引渡ノ上總額ヲ受取ルモノトス要
スルニ買人ハ問屋ト別記ノ例ニ依リ賣買ヲナシ問屋ハ會所ト賣買ヲナスモノナリ故ニ問屋ハ單ニ其ノ間ニ立チテ媒介ノ勞
ヲ取ルノミ其ノ手數トシテハ買人ヨリ總金高ノ百分ノ三ヲ得ルノミ時ニヨリテハ舊節季ニ於テ豫約販賣ヲナスコトアリ其
ノ場合ハ賣渡高ノ凡ソ半金ヲ保證金トシテ受領スルナリ

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法、船員ノ給料、船頭ト鹽商トノ關係

鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣 鹽ヲ賣買スル船頭ハ從來ノ習慣トシテ當港ニ入津セハ直ニ問屋ニ至リ買得セントスル鹽ノ石
數ヲ談合シ問屋ハ之ヲ鹽田會所ニ申込ム尤モ鹽拂底ノ場合ハ碇前後トシテ港内ニ船ノ碇泊セシ日時ニ依リ前後ヲ定メ賣
買ノ契約ヲ爲スコトアリ

元來當地ニ來ル鹽船ハ日本形帆船ノミニシテ當地方及九州固伯ノモノナリ九州ヨリ來ルモノハ石炭ヲ當地方ニ積ミ因伯
ヨリ來ルモノハ穀類木材ヲ下ノ關地方ニ輸送シ當地方ヨリ九州ニ行クモノハ又歸路石炭ヲ積ムヲ以テ副業トセリ而シテ
當地ニ來ル船頭ハ着船ノ日ヨリ出帆迄問屋ニ寢食シ其他ノ舸子ハ終始船住居ヲ爲セリ

船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法 船頭ハ鹽ヲ積入レテヨリ直ニ需用先ニ運搬ス若シ航海中ニ於テ災異ニ會シ鹽ノ幾分ヲ損
スルコトアルモ船頭ニ於テ之ヲ辨償スルコトナシ而シテ船頭ニシテ單ニ運賃ノミヲ目的トスルモノト自ラ鹽ヲ運搬スル
モノトアリ

船員ノ給料 船長ハ自己カ營業ヲ爲スモノニシテ給料等ノ定メナク營利ヲ目的トス以下船員ハ船長ヨリ給料ヲ受クルモ
ノニシテ其ノ給料左ノ如シ

運轉士 一ヶ月九圓 水夫長 一ヶ月金八圓 水夫 一ヶ月七圓 炊夫 一ヶ月金二圓

船頭ト鹽商トノ關係 從來船頭カ鹽買入ノ爲メ自ラ乗船シテ下松港ニ入船シ直チニ問屋ニ付キ鹽ノ積載石數及ヒ鹽賣買

ノ豫約ヲ開始シ之ニ依リ問屋ハ鹽田會所ニ交渉シ鹽ノ百石當リノ相場ヲ取組ミ鹽買込ミノ契約ヲ締結シ相當代價ノ授受ヲナシ船頭ヨリ相當ノ口錢ヲ問屋ニ渡スモノトス

三 從來ニ於ケル鹽ノ販路 該當記事ナシ

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其ノ方法、契約並ニ償却ノ方法 從來鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルハ

左ノ如シ

毎年陰曆正月二月陰曆盆前ノ二期トス其ノ金額ハ一回毎ニ百圓以内トス

契約ノ方法 從來鹽商人ヨリ鹽業者ニ資本金ノ融通ヲ付ケタル時ハ其ノ金額ノ多少ニ拘ラス契約書ヲ作成スルモノナク

總テ無利息ニシテ信用上ノ無條件ノ貸借ナルモ他日鹽買入ノ際一般ノ相場ヨリ百石ニ付キ五圓位ヒノ廉價ニテ賣買スル

ヲ鹽商人ノ目的トセリ

償却ノ方法 從來鹽業者カ鹽商人ヨリ資本金ヲ借入レタル時ハ其ノ年ノ鹽買契約ヲナシ他日鹽引渡シ現金受授ノ際差

引決算ヲナスモノトス

五 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場、小賣價格

鹽ノ濱相場		鹽ノ小賣相場			
三十四年	1,000	1,101 ^円	三十四年	0,010	0,010 ^円
三十五年	1,000	1,177	三十五年	0,010	0,010
三十六年	1,000	1,244	三十六年	0,010	0,015

六 鹽價ノ定メ方 毎年鹽製造開始前鹽田會所ニ於テ鹽製造業者ヨリ商業掛三名ヲ撰舉シ之ヲ定メ之レカ給料一人ニ

付一ヶ月金一圓五十錢ツ、ヲ支給スルモノトス此ノ商業掛ハ毎年鹹水煎熬開始ヨリ煎熬終業ノ間鹽商人ノ申出(注文)ニヨリ約四十回位ヒ値立ヲ通スヲ通常トス且ツ氣候ノ變遷ニヨリ鹽價ニ甚シキ變動ヲ來シタル場合ニハ値立ノ爲メ鹽田會所ニ

集會シ値立極メル度數百度以上ニ至ル實例モアリ初會値立ノ方法ハ米十石相場ト鹽百石ト比較シ之レヲ基礎トシ且ツ其ノ年ノ石炭ノ價格及日雇賃繩菰代等ノ相場ノ如何ヲ酌量シ値立ヲ爲スモノトス

七 販賣ノ季節

從來鹽ノ賣買價格ノ貴キハ毎年三月頃九州各地ニ於ケルたかな漬ノ時季ニシテ之レヲたかな鹽ト稱シテ需用尤モ多シ七、八、九月ハ該地方醬油釀造時季ナルニヨリ右需用尤モ多キ時ニシテ鹽價概シテ昂騰ノ期ナルモ是ハ其ノ年四、五、六月採鹹最好期ノ天候如何ニ關スルヲ常トス

八 鹽ノ俵數拔検査ノ方法

鹽ノ受渡ノ際ニ於テ鹽商人ト製鹽者ト鹽検査係ト三名立會ノ上各製鹽場ニ付百俵ノ内ヨリ六俵ヲ摘出シ其容量重量ノ検査ヲ行ヒ若シ定量ニ達セサル場合ハ其ノ不足容量ノ倍額ヲ總俵數ニ對シ徵ス而シテ本船ニ積込ム時ハ會所ヨリ再ヒ検査係ヲ出シテ鹽ノ秤量ヲナシ若シ其ノ鹽前日ノ量目ヨリ減少スルモノアル時ハ賣買ヲ破約シテ其ノ全部ヲ鹽製造人ニ返戻スルノ規定アリ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ノ步減ニ對スル處置

前八項ニ陳ヘタル如ク受渡ノ際ニ於テハ容量ニ減少アリタル場合ニハ其ノ不足容量ニ對スル倍額ヲ徵シ鹽買主カ鹽商人ヨリ受取ルノ習慣トス

地方ニ於ケル呼稱何斗俵入一俵ノ實量左ノ如シ

九 升 俵 一俵ノ實量九升一合入 此ノ重量十四斤一分

一斗四升俵 一俵ノ實量一斗三升六合 此ノ重量二十一斤

小賣一升 實量二百四十八匁

十 鹹水賣買ノ有無及其方法、價格ノ定方

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其方法

右二項該當記事ナシ

第八章 鹽運搬ノ方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬及其ノ各種積載數量 鹽ノ運搬ハ大概蒸汽船ヨリ普通帆船ヲ適當トス汽船ヲ以テ鹽ノ運搬ヲナス時ハ運搬費ハ比較的高價ニシテ且ツ其俵見ヲ傷フ虞アリ帆船ヲ以テ運搬スル時ハ鹽ノ取扱ヲ鄭重ニシテ運搬費ニ至ツテモ幾分低廉ナルヲ以テナリ

各種積載數量別

一俵容量	大帆船一隻ニ付積載數量	中帆船一隻ニ付積載數量	小帆船一隻ニ付積載數量	摘要
1,090 石	16,000 俵	11,500 俵	6,000 俵	九州航海船
1,140 石	14,000 俵	11,000 俵	1,300 俵	因伯地方航海船

二 各運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手数料、諸掛費、保險料、着荷地ニ於ケル諸掛費用等

(イ) 鹽一定量 十四斤一分 二十一斤

(ロ) 鹽一定容量 九升一合 一斗三升六合

(ハ) 運賃 九升俵百俵ニ付 自一圓三十錢 九州地方 一斗四升俵百俵ニ付 自四圓五十錢 因伯地方

(ニ) 出荷地ニ於ケル手数料 買入金高總額ニ對スル百分ノ三ヲ支拂フモノトス

(ホ) 諸掛費 積入ノ際浮荷賃百石ニ付九十錢鹽積賃百石二十八錢差繩代百石ニ付二圓二十二錢五厘鹽積人夫賄料金一人ニ付八錢二人分十六錢

(ヘ) 保險ナシ

(ト) 着荷地ニ於ケル諸掛費用

肥前國島原港賣買高百分ノ三ヲ支拂フモノトス

九升 俵 同 長崎港賣買高百分ノ五ヲ支拂フモノトス

同 大川港賣買俵數百俵三十錢支拂フモノトス

但馬賣買高百分ノ三ヲ支拂フモノトス

一斗四升俵 米子賣買高百分ノ五ヲ支拂フモノトス

伯耆國(米子ヲ除ク)同百分ノ三ヲ支拂フモノトス

(チ)鹽ノ運賃ト他ノ運賃トノ差異 普通貨物ノ運賃ト比較スル時ハ大差ナシ

第九章 小作人ト地主トノ關係

一 地主ト小作人トノ關係 小作人地主ヨリ日常需用品ノ供給ヲ仰クコト從前ヨリ更ニナシ、其方法地主ト小作人間

ニ周旋人アリテ前年ノ陰曆節季ニ於テ小作契約ヲ開始シ約定書ノ各項ヲ締結スルモノトス、豐年タリトモ契約書各項ノ外
増金ヲ納ムムルコトナシ、凶年ノ場合ハ小作人ヨリ地主ニ交渉シ見下トシテ約定加調金高ノ内ヨリ幾分ノ金額ヲ控除ス其
ノ實例既往十ケ年間ニ於ケル金高左ノ如シ

明治二十八年 見下金高 八十九圓九錢四厘

同 二十九年 同 ナシ

同 三十年 同 ナシ

同 三十一年 同 ナシ

同 三十二年 同 ナシ

同 三十三年 同 四百二十二圓五錢一厘

同 三十四年 同 百三圓九十七錢九厘

同 三十五年 同 三百二十七圓二十八錢四厘

同 三十六年 同 四十六圓六十七錢六厘

明治三十七年

見下金高

ナ シ

契約書ハ左ノ如シ

鹽田 小作 契約書

一 鶴ヶ濱二ノ樹二番濱

但シ沼井臺釜屋兩坪鹽藏濱子固屋其ノ他有懸不殘

此加調鹽六百十石五斗ノ定

但加調鹽定石ノ儀ハ意外ノ凶作タリトモ決シテ減作申間敷至當ノ代價ヲ以テ相調可申約定ノ事

一 小作約定ニ對シ前納トシテ金百圓相納可申加調鹽代御決算ノ節御差引可被下約定ノ事

一 加調鹽代金調方ノ儀ハ舊七月ヨリ十一月迄五ヶ月割ニシテ豫算ヲ以テ相調エ追テ代金決定ノ上決算可致候事

一 鹽田ヘ當ル諸税金ノ内半額ハ拙者ヨリ辨償可致約定ノ事

一 前金ニテ賣鹽引渡ノ節萬一及不足候時ハ勿論拙者負擔ニテ毛頭貴殿ヘ御厄介相懸ケ申間敷候事

一 釜屋葺換其他小口取繕ヒ普請ノ義ハ拙者ヨリ相調ヘ大立タル義ハ前積リヲ以テ御承諾ヲ得候上着手致シ成就ノ上入費

加調金ヘ御立勘可被下事

一 肥料入換砂沼井一臺ニ付十荷以上自費ヲ以テ持込可申候事

一 滿期ノ上ハ預リ品速ニ可致返却地場持惱ミ道具ヲ除クノ外假令自費ヲ以テ仕調ヘノ品タリトモ持退キ申間敷候事

一 小作中約定ノ廉其ノ他不埒ノ義有之節ハ鹽田御勝手ニ御取捌相成候テモ否無之候事

右貴殿御所有ノ鹽田前件ノ約定ヲ以テ本年一ヶ年小作致候段相違無之候就テハ製鹽ニ關スル諸規則ヲ確守シ火用心ハ勿論

風雨ノ節堤防等ニ氣ヲ付ケ可申候若シ加調金不埒ノ節ハ拙者所有物ヲ以テ御迷惑無之様道附ケ可致候依テ保證人相立進置

一 札如件

明治三十八年 月 日

前記約定ノ趣承知致候萬一本人不埒ノ節ハ少シモ御迷惑無之様拙者ヨリ速ニ道付ケ可致候也

保 證 人

第十章 組 合

一 鹽製造組合ノ組織規定及沿革

昔時ハ鹽製造組合ノ組織ナク只各濱持始持止日限ヲ協議一定スルニ過キサリシカ

明治十三年十州(播磨、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、阿波、讃岐、伊豫)鹽田會社ヲ組織シ各縣ノ區域ニヨリ會所ヲ設ケ當山口縣防長二國ハ防長鹽田會所ナルモノヲ設立シ尙ホ町村ノ區域ニヨリ分割ヲ爲シ當所轄内ハ下松西濱及東濱鹽田會所ノ二ト爲シ規則ヲ制定シ製鹽ノ良否倭製ノ善惡等ニ就キ品評會ヲ設ケテ之カ改良ヲ獎勵シ或ハ製鹽包裝ノ検査員ヲ設ケテ巡回検査ヲ行ヒ又生産者記號ノ中札ヲ挿入セシメテ需用地ノ信用ヲ維持スルノ策ヲ講シ或ハ又倭菰検査員ヲ定メテ倭製ノ改良ヲ促ス等大ニ面目ヲ改ムルニ至レリ

要スルニ一区域内當業者ノ利害ヲ均一ナラシムル方法ヲ以テ鹽販賣ノ如キモ總テ會所ハ專ラ干涉ヲナスモノニシテ西濱鹽田會所ニ於テハ販賣價格ヲ定ムルニハ會所ニ於テ承認セル四軒ノ鹽問屋アリテ九州又ハ北國地方ヨリ鹽ノ買受人來ルモノアルトキハ之ヲ會所ニ誘ヒ鹽買受見込高ヲ申込マシム會所ハ直立人(鹽製造者中古參者互選シテ豫メ三名ノ直立人ヲ定メ置キ販賣價格ヲ定ムルノ特權ヲ附與シ他ノ製造者ヨリ容喙スルヲ許サス)ヲ招喚シ買受人ト交渉シテ賣買價格ヲ定メシメ賣買契約ヲ爲シ手金トシテ代價ノ二割ヲ會所ニ支拂ハシム而シテ會所ハ包裝俵數引渡期日等ヲ協定シテ製造人ニ通知シ期日ニ至リ代金全部ヲ支拂ハシメ製造人ヲシテ上荷船ニ積ミ本船ニ運搬セシム(此際上荷船ノ舟夫ニ本船ヨリ一飯若ハ二飯ヲ供スルノ例ニシテ今ニ至ルモ舊慣ヲ襲用セリ)

其規則左ノ如シ

但從來西濱鹽田ハ矢島作郎ナルモノ、所有ニシテ宮ノ州廻送店ナルモノヲ設ケ鹽販賣問屋營業ヲナセシモ一個人ノ設立

ナルニヨリ一定ノ規則ナシ

第五期更正下松西濱鹽田會所規則

第一章 總則

第一條 本所ハ下松西濱鹽田會所ト稱シ當鹽田所有者ヲ以テ組織ス

第二條 本所々屬ノ鹽田三十六個ハ同正協力シ以テ製鹽ノ改良販路ノ擴張ニ注意シ專ラ永遠ノ隆盛ヲ圖ルヲ主眼トス

第三條 毎年春定常例會ヲ開キ本規則諸條外ノ諸事申合規則ヲ編成議決シ持主小作人ヲ論セス確寸實施スルモノトス

但緊急事務出來スルトキハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ渾テ開設日ハ頭取ニ於テ之ヲ定ム

第四條 鹽田開閉期ハ其都度防長鹽田同業組合下松支部會ノ決議ヲ以テ頭取之ヲ告示ス若シ之ニ背キ亂業ヲナスモノハ一

日ニ付金拾圓以上二十圓以下ノ過怠金ヲ課スヘシ

第五條 土井垂鹽ヲ採ルト稱シ地場ニ器械ヲ使用スルコトヲ禁ス

第六條 鹽田持主ハ總テ第五十七條書式ニ依リ委任狀其他規則書ヘ捺印スルモノトス

第七條 所有ノ鹽田ヲ他人ヘ賣渡ス時ハ賣主ハ買主ヨリ第五十八條約定書ヲ取付ケ必ス會所ヘ出スモノトス

第八條 鹽田預方ノ節ハ其旨頭取ヘ届出スヘシ

但小作者交替ノ時ハ其都度本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 地主ト小作人トノ間ニ取結フ契約及書式ハ各自適宜ノ文言ヲ以テスルモ左ノ二項ノ件ハ必ス契約シ且記載スヘシ

一 會所規則ハ總テ遵守スヘシ

一 規則ニ違背シタル所業アルカ又ハ一般ノ防害ヲ招クヘキ事蹟アリト認メラレタルトキハ何時小作ヲ差止ラル、モ故障中間敷速ニ休作可致候事

第十條 他ノ鹽田會所ヘ照會應答又ハ會議ノ立會ヲ要スルトキハ小事ハ頭取之ヲ專行シ大事又ハ例外ナルモノハ評議委員

協議ノ上處理スヘシ

第二章 役員及任期選舉法

第十一條 會所役員左ノ如シ

頭 取 一 名

評 議 委 員 四 名

但各任期各三ケ年

書 記 一 名

商 業 掛 三 名

但任期各一ケ年

使 夫 一 名

但無任期

製鹽受渡検査掛 一 名

製鹽積入検査役 一 名

鹽菰検査掛 一 名

視 察 方 一 名

上 荷 頭 一 名

鹽 量 一 名

但任期各一ケ年

第十二條 頭取及評議委員ハ持主中互撰投票ヲ以テ選舉スルモノトス

(十三) 三田尻鹽務局下松出張所ノ部 第十章 組合

但持主中ヨリ委任狀ヲ渡スヘシ

第十三條 書記以下ノ雇員ハ頭取評議委員協議ノ上雇入レ商業掛ハ現業者中ヨリ互選投票ヲ以テ選舉スルモノトス
但現業者ヨリ當選者ヘ委任狀ヲ渡スヘシ

第三章 職制及權限

第十四條 頭取ハ左ノ項目ニ基キ事務ヲ整理スルコト

一 製造方ヲ獎勵スルコト

二 製鹽賣捌上商業掛事務取扱ヲ監査スルコト

三 總テ書記雇員ヲ監督シ且任免スルコト

四 金錢出納スルコト

五 職務上必要ノ事件アルトキハ持主小作ヲ問ハス招集スルコト

六 總テ書類ヲ保護シ且關係者ヨリ請求スルトキハ披見セシムルコト

第十五條 評議委員ハ左ノ項目ヨリ諸事ヲ取謀ルコト

頭取ヨリ評議スル事件ヲ審論シ各持主ニ代リ會所役員ノ勤怠及諸事件ヲ檢正スルコト

第十六條 書記ハ頭取ノ指揮ヲ受ケ諸計算記録報告等ノ事ヲ取扱フモノナリ

第十七條 商業掛ハ會所ニ出頭シ頭取ヘ稟議シ鹽石炭ノ賣買雜品ノ直組等商業ニ關係スル事務ヲ處理スルモノトス

第十八條 視察方、製鹽受渡檢査掛、製鹽積入檢査掛、上荷頭、鹽量等ノ心得權限ハ頭取、評議委員、商業掛協議制定スルモノトス

第四章 販賣法

第十九條 製鹽販賣及輸出小賣等總テ會所ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

但小賣ハ豫メ圖取ヲ以テ順番ヲ定メ會所定メノ直段ヲ以テ賣方致スヘシ

第二十條 製鹽販賣ハ其都度商業掛立會賣買ノ契約ヲ結ヒ各鹽戶立釜總割ヲ以テ出鹽スルモノトス

但立釜ハ焚始ヨリ起業シ三十日以内猥リニ醒スコトヲ得ス自然有之場合ニ於テハ賣鹽ノ都合アレハ會所ヨリ更ニ立釜ヲ命スルコトアルヘシ

賣買直組結了ノ上ハ製鹽直組元帳へ登載シ商業掛問屋各認印ヲ捺シ買主ハ證據金トシテ鹽價高ノ二割ヲ即日限リ會所へ納入シ殘金ハ買鹽積取次第直ニ皆納スヘシ

但買主遠隔ノ地ニ在リ問屋ヲ以テ間接ニ賣買シ證據金即日納入ナシ難キトキハ取組前之ヲ示談セハ更ニ納期ヲ定ムルコトアルヘシ

石炭其他ノ物品ト鹽ト交易スルトキハ證據金ヲ要セスト雖モ該物品價鹽價十分ノ二ニ足ラサルトキハ取組ノ即日限リ其不足金額ヲ會所へ納付スヘシ賣鹽引渡ハ賣契約ノ順序ニヨリ之ヲ定メ直組證番號ヲ附記スヘシ故ニ買主ハ該番號ヲ以テ受引ヲナスモノトス自然買主自恣ニ其ノ受引ヲナス遷延一週日ヲ經過スルトキ若ハ順番ヲ缺キ次番乙買主へ鹽引渡ニ際會セス甲買主ハ賣買ノ効力ヲ失フ而シテ商機ヲ害スルモノニ付キ違約價金トシテ證據金沒收スヘシ

但止ヲ得サル事故アラハ其事由ヲ具シ頭取ノ認可ヲ得ルモノ又ハ結約ノ當時別段ノ契約アルモノハ此限リニ在ラス

第二十一條 先納金新鹽賣付ハ先ツ會所ニ於テ認可ヲ得テ現業者ノ協議ヲ以テ契約ス尤モ鹽價不相當ノ賣買ト見認ムルトキハ會所ヨリ中止スルコトアルヘシ

前項賣鹽價小作者ニ係ルモノハ豫メ地主ノ承諾ヲ得テ該當人ニ配付スヘシ

新鹽賣付ヲナシタル鹽戶ハ翌年始業後採鹹水十五日焚アレハ立釜ヲナシ第一ノ製鹽ヲ引渡スモノトス

本條契約違背ニヨリ損害ヲ生スルトキハ該損害ヲ償却セシムヘシ

第二十二條 殘鹽先金賣ヲナス手續ハ頭取評議委員並ニ殘鹽所有者總協議ヲ開キ石數代價等ヲ取極メ一名若クハ二名ノ賣

付委員ヲ選定スルモノトス

但賣付委員委任ノ權限ハ其時ニ協議スヘシ

第二十三條 第二十二條賣付ヲナスハ客船ヲ誘致スル爲ナレハ殘鹽所有ノ各鹽戶總割石數負擔ノ義務アルモノトス而シテ

總割外ノ増賣(思寄ヲ云フ)ハ各自適宜ト雖モ現在鹽超過スル賣込ヲ爲ストキハ差止ムルコトアルヘシ

第二十四條 仕舞置ト雖モ猥リニ販賣スルコトヲ禁ス止ムヲ得サル場合ニ於テハ第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 鹽菰俵仕立方法ハ毎年春定會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

但鹽菰ニ押捺ノ印章ヲ左ノ通り相定ム

烙印 (下) 青印 (改) 外ニ各濱印(烙印)

第五章 小作者心得

第二十六條 濱預リ方約定濟ノ小作者ハ何濱ヲ預リタル旨即時會所ヘ届出ヘシ

第二十七條 釜焚始焚終リノ日釜改メノ日共其都度會所ヘ届出ヘシ

第二十八條 濱持止後立鹽石數及採鹹水ノ見積幾日數等會所ヘ届出ヘシ

第二十九條 濱子其他雇入ノモノ諸規則ヲ犯シタル節ハ直ニ會所ヘ届出ヘシ

但シ私情ヲ以テ犯則者ヲ隱匿セシモノハ過怠償ニ處スヘシ

第六章 問屋心得

第三十條 會所付屬各問屋ハ頭取ニ於テ適當ト見認メタル保證人一名以上ノ連署ヲ以テ會所諸規則ヲ確守スル契約證ヲ出

スヘシ

但契約證ハ滿二ケ年間有効トス

第三十一條 鹽買入ヲナサントスルトキハ買主ノ住所、船、氏名、石數其他賣買ニ關スル事項ヲ詳カニ會所ニ届出ヘシ

第三十二條 鹽直組ノ際ハ客人問屋一同會所へ出頭シ賣買ノ取組ヲ爲スモノトス

但客人ノ好ミニ依リ問屋ヲ以テ間接ニ賣買ヲナスハ此限ニ在ラス

第三十三條 鹽代金ハ買船鹽積入濟毎ニ計算受渡ヲナスモノトス若シ買船出帆後三日間經過シテ計算代金支拂ヲ延滞シタルトキハ後買船ノ直組ヲ停止シ先船ノ鹽代延滞ノ處分ヲナスコト

第三十四條 鹽田上ニ關スル手代雇入ハ住所、氏名等豫メ會所へ届出ヘシ若手代雇入ニ於テ不正ノ所爲有リト認ムルトキハ會所ヨリ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

但本人不在中手代雇人ニ於テ爲シタル所行ト雖モ尙本人責任ヲ負フモノトス

第三十五條 同業者中申合規則ヲ編成決議シ會所へ届出保護ヲ受クヘシ

第三十六條 出鹽廻シ受方ノ節ハ製鹽受渡検査掛ノ立會ヲ受ケ其手續ヲナスヘシ自己ニ受方ヲナスヘカラス

第三十七條 製鹽積入ノ節ハ必ス會所へ届出製鹽積入検査掛ノ立會ヲ受クヘシ

第三十八條 石炭水揚ノ際ハ本船ニ於テ受取人過半数立會順番抽籤ノ上順次其運送ノ手續ヲ爲ス

第七章 上荷心得

第三十九條 上荷ヲ所持スルモノハ總テ當會所ノ規定ニ從ヒ鹽石炭及諸雜品ヲ運搬シ粗漏ノ取扱致間敷事

第八章 賞與及違約償却法

第四十條 小作者規則ヲ犯シタルモノ「會所ノ處分ニ服從セサルモノ」ハ當西濱地主中へ通知シ預ケ方禁止スヘシ

第四十一條 諸雇人犯則シタルトキハ濱働キヲ差止メ當西濱中へ通知シ將來雇入レヲナサルモノトス

第四十二條 評議委員以上ノ役員特殊ノ功績アルトキハ地主總會ヲ開キ賞與スルコトアルヘシ

第四十三條 書記以下ノ雇員ニ職務精勵ト認ムル事蹟アルトキハ役員協議ノ上賞與スルコト

第四十四條 違約者ヲ責ムルニハ小事件ハ其損害ノ大小ニヨリ過怠金ヲ定メテ償却セシメ大事件ニ至リテハ大小ノ損害ヲ

計リ過怠金ヲ償却セシメ事ニヨリ公判ヲ仰クコトアルヘシ

第四十五條 觸込鹽ノ相場ノ都合ニヨリ仕舞出ヲ拒ムトキハ會所ニ於テ買替ヲ爲シ相缺ヲ出サシムルハ勿論ニシテ且ツ其ノ後ノ仕舞ヲ一度若クハ數度觸込ヲナサ、ルモノトス

第四十六條 帳拔ニ鹽ヲ販賣スルモノハ現鹽ヲ取押へ且十石ニ付キ金五圓問屋同シク金二圓ヲ過怠償トシ出サシムルモノトス

第四十七條 頭取職務上不正ヲナスト確然認メタルトキハ評議委員ハ持主へ報告シ改撰スルモノトス且不正者へ相當ノ過怠金ヲ出サシムヘシ

第四十八條 評議委員ノ不正ハ頭取ヨリ持主へ照會シ改撰會ヲ開クヘシ且不正者ニ過怠金ヲ出サシムヘシ

第四十九條 鹽務ニ關スル役員事務上不正ナリト認ムルトキハ事實ヲ取糺シ臨時改撰ノ上相當ノ過怠金ヲ出サシムヘシ

第五十條 販賣鹽榷缺償却法左ノ如シ

俵仕立種目	並	缺	信	缺
大	一	一	一	一
二	八	八	八	八
三	三	三	三	三
六	三	三	三	三
一	合	迄	以	上
二	升	迄	上	
三	合	迄	上	
六	合	迄	上	

但缺鹽ノ口打シテ倍ノ缺鹽ハ其倍額丈ケ別表シテ本俵ノ通り仕立ヘシ最モ八升九合以下ニ仕立ル俵ハ缺鹽總テ別仕立ニスヘシ

第五十一條 過怠金ヲ定ムルハ頭取評議委員ノ協議ヲ以テ決シ諸規則ノ明文アルモノハ其箇條ニ依リ判定處分スルモノトス

第五十二條 渾テ過怠金ハ期限ヲ定メ收入スルモノトス

但怠納スルトキハ加調金又ハ塩代金、月給、日當其他運賃、給金、賃金、現物品ヲ差押スルコトアルヘシ

第五十三條 犯則者過怠金ハ二十五錢以上金五十圓以下ノ範圍内ニヨリ判定スルモノトス

第九章 諸費支拂課出方

第五十四條 每春常例会ニ於テ持主及現業者會所費ノ豫算額ヲ議定シ地主へ係ル費用ハ反別ト地價ニ折半シ課出シ現業者

ニ係ルモノハ總戸數ヨリ課出スルモノトス

但過不足ハ年度末ニ至リ決算報告スヘシ

第五十五條 役員ノ報酬給料及日當金左ノ如シ

頭 取 報酬金 五十圓

評議委員 出勤日當 三十錢

書記 月給 四十圓

但事務繁劇ナルトキハ頭取評議委員協議ノ上増給スルコトアルヘシ

商業掛 年給 十七圓宛

製鹽受渡検査掛 出勤日當 二十三錢

製鹽積入検査掛 出勤日當 二十五錢以上三十錢以内

鹽量検査掛 月給 六圓

視察方 月給 四圓五十錢

上荷頭 年給 十一圓

鹽量 年給 三十圓

第五十六條 旅費ハ其都度頭取評議委員ニ於テ議定スルモノトス

第十章 書式

第五十七條 役員ニ對スル委任狀及役員ノ誓約書式左ノ如シ

委任狀

今回貴殿ヲ頭取ニ(或ハ評議委員ニ)選舉致ニ付テハ規則ニヨリ百般ノ事件利益保守ノ處分ヲ目的トシ御取計被下度後日ニ至リ決シテ異議申間敷依テ任證トシテ記名調印如件

年月日

何那何村何番屋敷何濱持主

頭取(又ハ評議委員)何條 何 某 殿

委任狀

今回貴殿等ヲ商業掛ニ選舉候ニ付テハ會所ノ諸規則ニ依リ諸事御取謀相成度決シテ貴殿等取計上ニ付テハ異議申間敷後證トシテ記名調印如件

年月日

現業者連名

商業掛 何 某 殿

頭取誓約書

拙者儀今回鹽田會所頭取ノ任ヲ受ケタル上ハ規則ニ遵ヒ貴殿等一同ノ利益幸福ヲ謀リ鹽田維持ノ方法ヲ講ス可シ萬一不正ノ所業及會所ノ機密ヲ漏泄スル等ニテ規則ニ背キタル所業アリタルトキハ相當ノ處分ヲ受クヘシ依テ誓約スル所如件

年月日

下松西濱鹽田會所頭取 何

某印

西濱鹽田地主何條何某殿外何名

評議委員誓約書

拙者儀今回塩田會所評議委員ノ選舉ニ當リ就任シタル上ハ一般幸福ヲ謀ルハ勿論第一頭取ト營業上ノ事項ヲ謀リ第二商業上ノ監督スル等總テ規則ニ基キ服務致ヘク候自然規則ニ違背シタル所業アリタルトキハ相當ノ處分ヲ受クヘシ依テ誓約スル處如件

年 月 日

下松西濱鹽田會所評議委員 何 條 何 某

西濱鹽田地主 誰 殿

盟 誓 約 書

拙者義今回現業者中ヨリ委任ヲ受ケ商業掛ノ任ヲ負擔候ニ付テハ百般ノ事件會所規則ニ依據シ頭取ノ差圖ヲ守リ各濱ノ利益幸福ヲ目途トシ強勉ヲ爲スヘシ若シ在勤中直組上ノ諸事其他職務上不正ノ行ヲナシタル節ハ相當處分ヲ受クヘシ依テ盟誓約スル處如件

年 月 日

下松西濱鹽田會所商業掛

下松西濱鹽田會所頭取 何 條 何 某 殿

誓 約 書

御會所諸規則ヲ確守シ毫モ違背セサルヘシ萬一規則又ハ會所ノ御差圖ニ違背セシトキハ御規則ニ依リ相當處分相成共決シテ異儀申間敷依テ誓約スル所如件

年 月 日

何 郡 何 村 何 番 地 何 濱 現 業 人

何 某

下松西濱田會所頭取 何 某 殿

第五十八條 本所々屬ノ鹽田買得人ヨリ差出スヘキ誓約書左ノ如シ

(十三) 三田尻鹽務局下松出張所ノ部 第十章 組合

誓 約 書

拙者義今般何條何某所有ノ何濱買得候ニ付テハ當西濱會所諸規則其他鹽戸ニ關スル諸規則共一切確守シ違背致間敷若犯
則ノ節ハ規則ニ對シ御處分相成候共決シテ異儀申間敷候依テ誓約書如件

年 月 日

何郡何村何番地

何濱買得人

何

某

下松西濱鹽田會所頭取 何 某 殿

第十一章 會議法

第五十九條 會議規則左ノ如シ

一 會議ハ通常會臨時會ヲ分タス時々談話シテ充分其ノ意見ヲ發スルヲ要ス

二 會員半數以上ノ缺席アルトキハ休會スヘシ最モ他人ノ委任ヲ兼タルモノハ該委任狀ヲ以テ現人員ト見做シ開會スル

コトアルヘシ

但會決ノ可否ヲ算スルハ此限ニ在ラス

三 會議ノ件至急ヲ要スル場合ハ會員過半數ニ充タスト雖モ開會時刻一時間ヲ經過スレハ出席會員ノ決議ヲ以テ開會ス
ルコトアルヘシ

四 會長ハ頭取ヲ以テ之ニ充ツ

五 議案ハ頭取ヨリ發スヘシ

六 會議ハ多數決トス可否同數ナルトキハ會長ノ意見ニ依ル

七 會決ノ可否ヲ算スルハ人員ニ依ラス鹽田戸數ヲ以テ算スルモノトス

八 可否ヲ決スルハ舉手投票ノ二種トシ會長便宜之ヲ用フ

九 會員ハ自分ノ不參ヲ口實トシ後日異議ヲ唱フルコトヲ許サス

第六十條 本書規約ハ明治三十六年十一月ヨリ明治四十年十月迄滿五ケ年間履行シ慢リニ變更スルコトヲ得ス

然シテ滿期ニ至リ地主會ヲ開キ繼續スルモノトス

附 則

此規約ニ規定ナキ事件相生シタルトキハ頭取評議委員協議ノ上臨機ノ處分ヲ爲スヘシ最モ重大ノ事件ハ總會ヲ開キ議定スルモノトス

右今回地主總會開設ノ上實正決議スル所ニシテ本所鹽田者一般履行實施スヘシ依テ相違ナキ旨ヲ證スル爲メ各自捺印候也

明治三十六年十一月十五日

下松濱鹽田持主連署

二 鹽販賣組合ノ組織規定及沿革

取引先ノ大部分ハ九州筑後若津港ナレトモ近年門司ニ陸揚シ汽車便ニ依ルモノアリ

リ其需用地ハ久留米附近トス又肥前高原ニ送ミモノハ五島其他ノ需用ナリ、販路ハ産額ノ七八分ハ九州ニシテ其他ノ多數ハ因伯地方ナリ、九州送りハ三池炭買入船カ買入送ルモノ多シ、因伯ヨリ來ルモノハ多ク合ノ子船ニシテ積載品ナシ多分ハ馬關若クハ門司等ニ陸揚シ空船ニテ當地ニ回シ鹽ヲ積ムモノナリ、筑後山門郡下ノ瀬ヨリ五百石位ノ船ニ石炭ヲ積ミ當地ニ入津シ其返リニ鹽ヲ買入ル、モノアリ、九州ハ九升俵トシテ九升一合、因伯ハ一斗三升六合、外注文ニヨリ二斗五升又ハ一斗五升等アリ、俵裝ハ買主ノ注文ニ依リ製造者ニ於テ負擔セリ、藁菰改良セシ爲一俵ニ付二厘ツ、買主ヨリ支拂コト、セリ、鹽積込賃ハ百石ニ付二十八錢ヲ荷主ヨリ支拂習慣ナリ

三 燃料其ノ他需用品購買組合ノ組織規定及沿革

古來燃料其他需用品購買組合ノ組織ナク各自適宜購入セルモ石炭

ハ總テ問屋ヨリ買入ルモノニシテ昔時ハ米銀取引ナリシモ米銀ハ普通八九ト稱シテ正金ヨリ二歩高價ナリシヲ以テ近時其石炭代ヲ通貨ニテ支拂ニ至リシモ問屋ハ其手數料五歩ノ内二歩ヲ購入者ニ返付スルノ慣例ナリ現今ニ至ルモ此慣例ヲ襲用

シテ手数料ノ内二步ヲ返付シツ、アリ

昔時問屋ノ手数料ハ炭價ノ一割ナリシヲ或時元手金ノ乏シキ問屋アリテ需用者ヨリ先金ヲ受取五步ノ手数料ヲ以テ取引セシコトアリシ爲自然各問屋モ手数料ヲ五步トナセリ

第十一章 試 驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒 鹽

第十五章 再 製 鹽

右五章該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價時價小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較 鹽田反別一町七反九畝十步

地 價 十三圓五十九錢 時 價 六千圓 小作料 四百八十七圓九十五錢八厘(卅六年分)

普通ノ田地ト鹽田ノ小作料ト比較スル時ハ左ノ如シ

鹽田一戸前小作料金四百八十七圓九十五錢八厘

普通田地一町八反步小作料金二百七十圓

差額金二百十七圓九十五錢八厘